女學雜誌

一册六錢

各土曜日發兌

第百九拾貳號

當府內無郵稅

郵稅五厘

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 192. DECEMBER 21ST, 1889.

EDITORIAL :—What we have Resolved to do concerning the Abolition of Prostitution. The Absence of True Poets, the Lack of Modern Japan.

LEADING ARTICLES :—Concerning Human Nature. (GANRYO KYOSHI). Licensed Prostitution must be abolished. (N. BAN).

CRITICAL NOTES :—Mr. AIBA's Style of Prose Writing. (FUCHIAN). "The American Women." On "Different Styles of Novel Writings."

MISCELLANEOUS :—Thoughts on the Eve of the Year. A Child is the Photograph of its Mother. A Query and Reply concerning "How to obtain the Love of Husband." Causes of Consumption. Prose Writings of Five Literary Talents. "A eat and a Rat." Voltaire in London. About Typhoid Fever (Dr. MISHIMA).

NOVEL :—"The Italian Beauty" (*Continued*).

CONTRIBUTED ARTICLE :—Restriction on the Sale of some Pictures. (Mrs. ASA). On the Bettering of Woman-kind.

OPEN LETTERS :—Girls in the Country. A Letter to Miss Fumi Kishida.

NOTES ON THE NEWEST ISSUES.

NOTES AND NEWS.

CONCERNING WOMEN.

SINCE OUR LAST ISSUE.

第百九十二號目錄

社説 廢娼論に關する吾人が決心○詩人、日本現時の極病處

論説 偶感（雁陵居士）○廢娼の議遂に已むべからず（伴直之助）

批評 饗庭篁村先生の文章（不知庵主人）○米國婦人○小説界文派を讀む（雲峯子）

雜錄 歳暮人生の感（しのぶ）○子供は母の寫眞○何如にして良人の愛を得べきの疑問答○肺勞の原因○五才子の文○猫さ鼠○ボルテア倫敦市中に苦しめらる○腸チブスの說（醫學士三島通良）

小説 伊太利の佳人（第五回）

寄書 發賣を禁止されたきもの（あさ女）○婦人改良を論ず（土州の女）○女子の長所（雲峯子）○

開書 地方の女子の事（北豆一書生）○岸田ふみ孃に送る（一人）

時事 文學極衰○さま〴〵○歳暮述懷○麗ぉ女子教育○濁界清報のひゞき○細見讀賣○琉球にも慈善會起る○交際の機關さは何事ぞ○

女報 女官へ紀念章授與○群馬縣存娼論○婦女渡航制限

WOMEN IN JAPAN.

(1) *Her Imperial Majesty, the Queen, was pleased to give 600 yen yearly to The Tokyo Orphanage.*

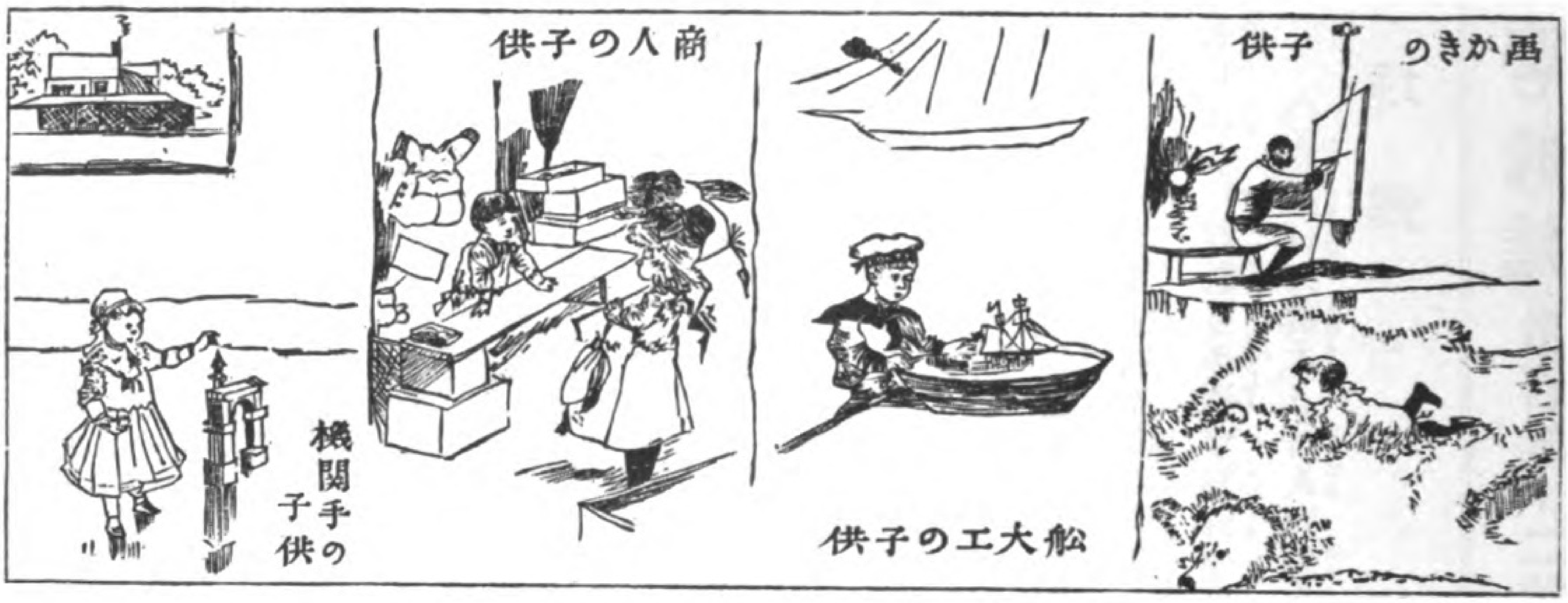
(2) *It is said that many gentlemen have already pressed an "Alliance for Abolition Licensed Prostitution" since the last week.*

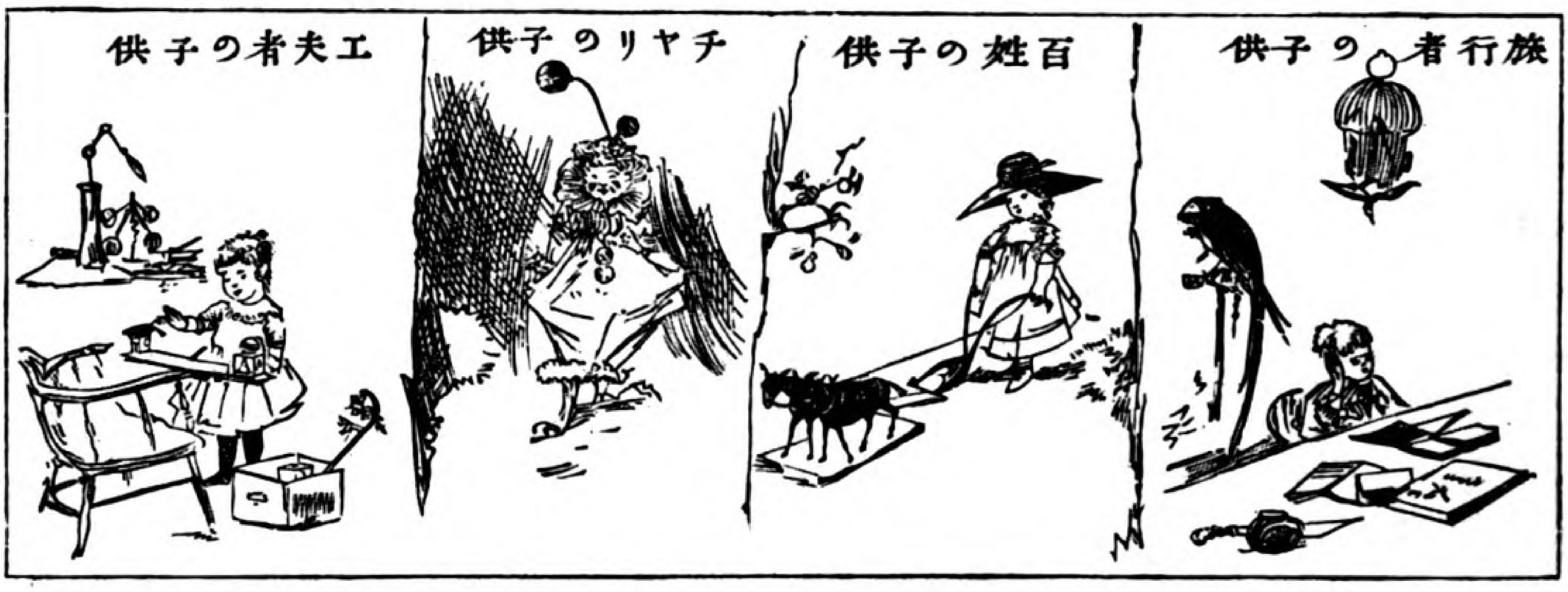
(3) *At a recent meeting in the Saitama Local Assembly, the subject of abolition of licensed prostitution was brought up, and the Assembly decided that within the 3 years, all the brothels in Honjo and Fukaya, which are the only places in that province, should be abolished.*

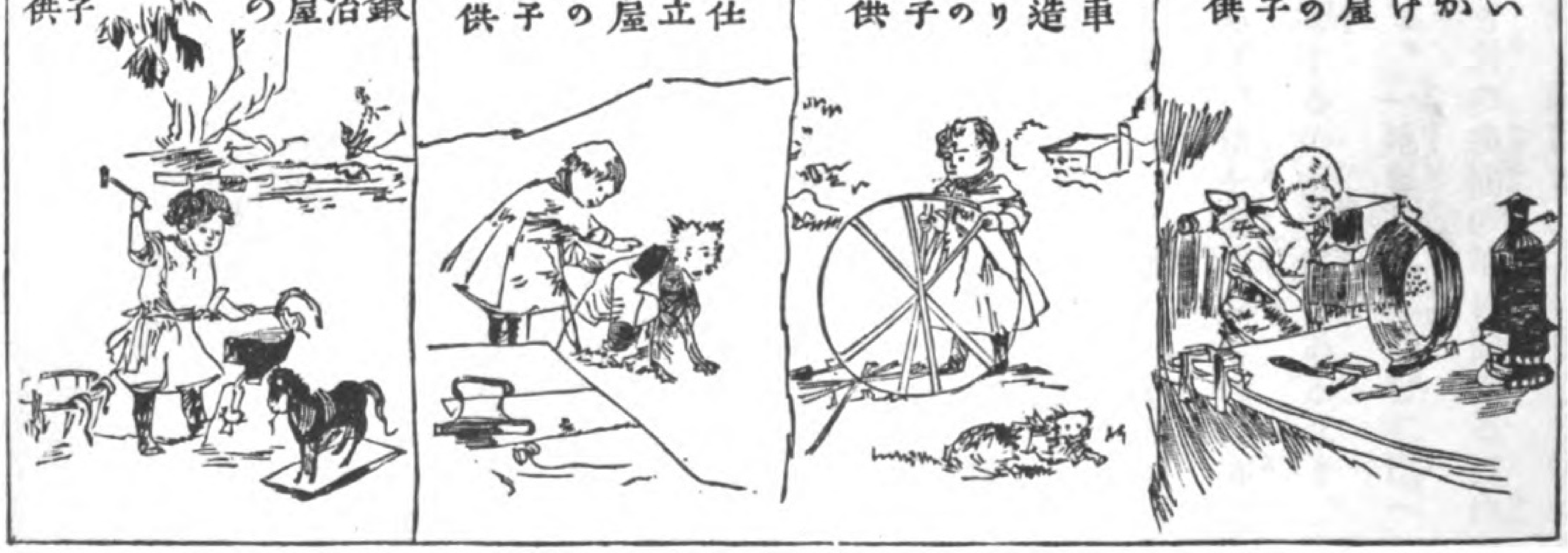
(4) *We are told that Messrs. Takezaki, Kashiwa, and Chishiki of Kagoshima, are intending to establish a girls' school there. Mr. Takezaki has recently came up to Tokyo with the purpose of collecting contribution money from the Kagoshima people in Tokyo. The special feature of this school is to train up girls to become good wives. It is said that already several foreigners have consented to engage in the school works without any compensation and that Countesses Saigo, Matsukata, Oyama, as well as Viscountesses Takashima, Yoshida, Kabayama, Nire, Ijuin and several others are going to assist it.*

Digitized by Google

Original from COLUMBIA UNIVERSITY







Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

女學雜誌 第百九十二號
明治二十二年十二月廿一日發兌

社説

○廢娼論に關する吾人が決心

論者或は云く、妓樓を全廢せば密かに賣淫するもの頓かに増加し取締の行れざるを以て梅毒非常に蔓延せん、此れ何よりも恐るべきことにて廢娼の儀本來美事なりと云へど斯る弊害の太甚しく行はるゝを何如にせんと。　吾人は之に答ふ、此の論者は娼妓を公許するより出で來る弊害の現に數層倍にて在ることを覺らず、たゞ公許禁止の后に至りて初めて弊害なるものゝ起るやうに考へたるにて、其誤まり現制度より發する毒惡の極めて烈しきことを知らざるに由ると言はん、抑そも娼妓公許とは姦淫公許と云ふに均しきことにて、姦淫を公許するとは國民を毒する最上極猛の惡德を公けに是認し、然のみならず之を保護し、助け長じ、恰かも加へて之を煽がんとするに左も似たるの處置にてある也、蓋し世の人は未だ細かに姦淫の惡德たることを知らず、亦之より起り來る弊害の最も重大なることをも知らざるなるべし、左れど姦淫の國家を毒することは疫疾戰爭よりも猛烈なりと覺ゆ、抑そも姦淫は一の僞善者の如し、多少の僞はれる愛を裝ほひ、柔軟として恰かも人に親切なるが如し、然れども其の表面の羊に似たるは内身の狼の如くなるを示すものにて、一見寧しろ憫れむに堪へたるもの是れ即はち尤とも人を毒するの病元にてあるなり、凡そ愛を僞はるものは眞愛を知らず、情を弄そぶものは亦た眞情を知らず、眞の愛なく情なくして反つて惡むべく恥づべきの情愛に陷いるものは、其心靈すでに腐れ亦た高尙の德を重んずるの念を懷く能はず、此に於てか夫婦間に起るべき美なる淸らかなるの愛情、又は人を愛し人の靈魂を愛し人の一身を愛重する謹嚴にして愼しみあるの眞實、又は一家を幸福にし家人相愛し族のもの團欒して健やかに美しく樂しむの和樂等は、最早如此く墮落したる人々の心に存することなし、彼等が男女相見るの眼こは既に汚れたり、家族相ひ信ずるの誠は既に失せたり、德を守り品行を健全にして愉快を覺ゆるの味わひは既に奪はれたり、噫姦淫すでに如此く人の最高最美の精神を消磨し去れば、平生此の毒を呼吸するの人民を擧げ飜へして有德の良民たらしめんと欲するは殆んど望みなきの事と云ふべし、此に至るも尙ほ姦淫は國家を毒する深からずと云ことを得べきか、彼の疫疾は之に罹りたる病者の身躰を破るに止ま

り、戰爭は之に戰ふの人を殺すに止まる、左れば姦淫の風もし國中一汎に流行せば、其の國民の肺肝に浸み入りて之が骨髓を腐らし腦心を敗ぶる、病ひ全國中の衷心に徹するものにて害の大ひなると何物にも優るあり。故に吾人は姦淫を公許するとを以て最大の弊害なりと認む、彼の密賣淫の增すと梅毒の蔓延するとなど固より恐るべきの弊害たるに相違なし、然れども此の弊害を以て彼の姦淫公許の弊害に較ぶるときは弊害の更に小さきとを認たり、苟くも弊害を除かんとする者は先づ其の大ひなるものを改めて小さきものとし、小さきものを改めて更に小きものとし、遂に之を消滅せしむるとを期せざる可らず、吾人が今日廢娼を主張するもの其結果として多くの弊害出來らんとを知らざるに非ず、然れども其弊害たる現在の大弊害に比較して寧ろ小なるとを知るを以て敢て如此く熱意主張するなり、世人は今姦淫公許の空氣中に呼吸せり、之を以て姦淫の惡むべきと及び其毒の非常なるとを知らず、嗚呼姦淫公許の毒や世人をして之を惡まざる迄に至らしめ、其毒滿々たる間に居て絕えて其毒を感ぜざる迄に至らしめ、尙且つ姦淫よりも梅毒密賣等を以て更に害あるものと思ふ迄に至らしめたり、之れ姦淫公許の惡果如何程なるかを示す的切の明證にあらずや。

吾人は姦淫公許を以て最大の弊害なりと信ずるが故に、廢娼を主張す、よし論者の言へる如く密賣淫大に增加し、梅毒非常に蔓延すと假り定むるも尙ほ之を主張す、何んとなれば一の大害を除きて稍や小なるの弊害に移り、且つ惡德を公許するとを止めて默許するとに移り、即はち不善を滅するの進路に於て正に一段を進むと信ずるが故也。然れども吾人は妓樓全廢の后ち密賣淫の增加せざるとを確信す、たとひ數年間は一時增加するとも數年を經て慣習氣風一變し來ると共に密賣淫頓に減じ妓樓存するの時よりも一層に少却すと確信す、此の信仰なくとも尙ほ廢娼を主張す、況して吾人が此信仰を懷く斷々乎として礙石の上に立つが如くなるをや。

廢娼の方法及び廢娼后の取締方に付きて苦慮するものあり、論者往々之を詰問す。吾人答へて曰く、之を廢するの方法は土地に隨つて相違あるべし、群馬縣の如きは無論即時斷行して宜しきものなり、埼玉縣の如きも又或は然らん、其他の地方にして若し即時に如此くするを得ざるときは、新に娼妓に鑑札を授くるを止め、現娼妓の年期明に於て勤め續きを爲すを禁ずるか、若くは后ち何年と限りて全廢を豫告するなど

當に然るべきの處置たり。　又た廢娼の后ちは政府に於て一層警察を嚴密にすべきは勿論、民間の廢娼論者は一の廢娼組合の如きものを設け、各町區に散在する會員は恰かも私警察の地に立ち密賣淫者を發見して之を訴告するの責任を負ふなど一の良法たるべし、又た警察署は一の梅毒病院を設け密賣淫犯罪者を撿査し病ありと診定したるものを治療し其入費は犯罪者より收納し得べき割に罰金を多くすべし、但し此の病院を官立するは廢娼后數年間の處置にして決して之を久しくす可らず又た罰金の高は追々に高くし后には啻に罰金を科するのみならず別に徒刑に處する等の處置もあるべし必竟漸次に密賣淫取締の法を嚴密にすることを覺悟すべし、而して民間の有志者は亦た慈善梅毒院を設立し病める者を治療すべし、尚且つ女子授產場を設け貧困の女子に產を授くるの途を工夫し、更に資金を募集し得ば奉公金前借の便利をも與ふべし、此等は即はち廢娼后當に行ふべき方法中の一二なり。

吾人は此等の方法の能く行はるべきを信ず、然れどもたとひ不幸にして行はれざるも尚ほ廢娼を斷行せよと主張す、何んとなれば姦淫を犯すものゝ罰を蒙むるは當然の天則にして此の天則をして行はれしむるは即はち遂に姦淫を減ずるの効あるものなれば也、又婦女子はたとひ貧困するも姦淫罪を犯して營利すべきものにあらず若し此の不當の商賣を爲さゝれば饑渴すと云はゞ之れ社會の制度の不十分なる也、社會の制度不十分あるにあらずして尚ほ賣淫せざれば饑渴すと云ふものあらば之れ盜賊を爲さゝれば生計を得ずと云ものゝ類のみ、政府及び仁人は之が爲めに特別の方法を工夫するに及ばずと信ず、吾人は如此く信ず故にたとひ彼の方法行はれ得ずとするも尚ほ廢娼斷行を主張すべし、左れど今の時世の不完全なるを思ひ敢て如此き種々の姑息慈善法を行ふとなすも尚ほ能く其慈善法の行はるゝとを確信するを以て、吾人は即はち一の狐疑する所ろなく一の涙を垂るゝ所ろなく、斷然として歌ひつゝ娼妓全廢を主張す。

○詩人、日本現時の極病處

○左は番町青年會に於て演述したるもの丶骨骸たり。

議論の効能

議論は議論する爲に議論するにあらで、信仰を得ん爲にするとなり。　總て議論は斬新の道理を發見するの功至って薄きものにて、寧ろ疑を散らし推察を確かめ信仰を固うす

るの役を爲すものたり。　疑を議論の爲に晴らすとはあれども議論は自身の爲に信仰する能わず、議論まづ疑惑の雲を拂へば眞如の月は自から光明を發つべき也。　抑そも學說の價ひ幾千ぞ、天地の元素は地水火風ありと云へる時は元素に對するの疑を左樣に解釋せし也、次に木火土金水ありと云へる時は更に起りたる疑を左樣に解釋せし也、今日万物の元素を七十餘ありと云ふも亦當今の疑に對して解釋せし也、左れば何如に解釋するに係ハらず分らぬとは何分らず只だ元素ありとの信仰を維持する爲に色々に申すのみなり。　古人は古人の儘に信仰し、今人は今人らしく信仰す、信仰し得れば指を忘れ議論は何如やうにても宜し。

玆に至つて學者と云ふものの眞質を知るべし、學問の目的は人の義務を辨ずる事又た義務を逹し幸福安全を得るの方法を敎ゆるとに在り、學者は其研究を爲し世人に敎ゆる敎師なり、又自ら能く實行して其の雛形を示すもの也。　故に學者は疑ふが目的に非ず信仰するが目的也、研究するが目的に非ず研究して世に敎へ身に實行するが目的也、其學者たる價値の有無を判するは此信仰、此の敎へ、此實行の有無何如を問ふに在り。　俗人往々曰く、あの人は才子なり事を能くするなり理屈を能く用ゆる也然し學問は左程に無いと又一人曰くあの人は學者だが物の役に立ぬ博學だが新見識が無いと、此等は矛盾を極めたる話しで、眞の學者は書物を讀めるの多き、物を知るの多き、議論するとの巧みなる等に非ず、深く信じ、斷じて行ひ、悟つて敎ゆるとの出來るもの即はち是也。　宗の趙普は論語半部を以て天下を平らげ、梁の武帝は數百万卷を燒きて讀書効なしと云ひ、秦始皇は悉とく儒者を坑にしたれど秦の天下は治まりたり。　彼の陽明派及び朱子派の相違を見よ、中江藤樹熊澤蕃山等をこそ眞の學者と云ふべし、滔々たる先生は講釋家、注釋家、に止まり眞の學者とは云へず。　必竟議論の目的は信ずるにあり、學問の目的も亦信ずるに在り、斷ずるにあり、行ふに在り。

文明と詩人

文明と詩情は逆行すと云ふものあり愚論なり。　幼あらしき情、奇異に驚ろく情、戀々執着する情、雄壯空漠の情、などは未開時代に多くして文明の世に減ず、又醜陋、緻密、器械的、冷淡等は文明進むに連れて增し未開時代には少なきが如し。　之に依りて詩情は文明開化に隨つて減ずと云

ふ一理あれども其上になし。學問議論の進歩も中途にて迷ふとあり。中比ろは物質的、機械的、解剖的、懷疑的となるともあれども夫は一時の迷ひにして直ちに後悔するもの也。斯る迷ひの時代には詩情も減ずる如けれど啻に詩情のみの減ずるに非ず、信仰も衰ろへ、道德も衰ろへ、國力品行も衰ろへ、万界暗黒となる也、詩のみに非ず。此雲既に拂はれ去れば依然明月を見る、文明の進歩はいよ〳〵天地の美妙を現はし人間の謙遜を增し心の信仰を大くす、此に至つて詩情ます〳〵高し。理學の進歩も詩情を增すあり、ゲーテ、スペンサー能く之を言へり、日本在來の歌よみが能く「自然」に注意したる亦此例也。故に或る時代に於ては詩情減ずるともあるべし、但し如此き時代は尤も憂ふべき時代也。

眞の詩人

詩人は直覺者なり、万物の代言者なり。人情最深の谷を穿てよ、其處に詩の泉あらん、詩人は之を堀り上に噴出せしむ。詩人は權衡に據らず、統計表を見ず、階子を登らず、一躍して天に上り、忽焉心の心に竄入す。其歌ふ所ろは万人の情、其言ふ所ろは万代の通理、其信ずる所ろは万世の信仰なり。詩人の眞の詩は學問の研究する所ろ、議論の斷定する所ろと同一なり、詩人は學者中の學者、教師中の教師なり、眞の詩は學理の玉なり、議論の粹なり、信仰の結晶なり。眞の人情を知んと欲せば詩人に聞け、眞の人間を見んと欲せば詩人を見よ。

日本の詩人

實に歎息なり、所謂る歌よみはあり、ポーエットはなし、否な無きに非じ、聞えぬ程に少なき也。代々の歌よみは其先代〳〵にと眞似、先代は又其先代にと眞似、人丸以來万の歌人皆な人丸的なり、人丸歌集二百五十餘首の歌皆な戀歌ならぬはなく、其の眼を見張つて自然を見るや、淡海の海、雷、風、松、ちさの木程に過ぎず。爾來の歌人、詠む所ろは戀、身のまわりの道具、志賀のさゞなみ、富士の高根、子の日遊び位ひの類なり。纎弱なるが歌の長所と云はゞ日本には別に宏壯雄大なるポエッツリーを要す、之を合せて初めて詩ありと云ふべし。日本に眞の詩未だ見へざるは啻に詩の爲にのみ歎かず、國歩大躰の爲に歎ず。

日本現時の極病處

議論未だ信仰に達せず、學問未だ實行に到らず、總べて是

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

れ懐疑の空氣滿てり、絶へて雄偉強固なる信仰なし。此の信仰なきが故に、道徳も弱く、國力も弱し。此信仰なきが故に詠出べき大なる詩情存せず、大詩人の出でざる尤ものと也。眞の詩人未だ多く現われざるは、日本現時の極病處を表彰す。

論説

○偶感　　　　雁陵居士

毒を飮ましめざれば人を殺すこと能はざるか或人は客に茶を飮ましめたる後マツメなる顔色にて今のは毒にてありしと言ひしかば客は忽ち腹痛を催して死したりと云ふ鐵砲や刃物なければ人を殺すこと能はざるか伯林に於て三人の醫者が試驗の爲め一傭夫を殺したる話あり。

一日甲乙丙の三醫は稠人中に於て一傭夫を試驗の材料と定め甲醫先づ傭夫に向ひ其顔色を熟視して曰く足下の顔色太だ惡しゝ疾病あるにあらざる乎善く注意せよと傭夫は健康の身なるに突然醫者の忠告を受けたるを以て怏々として我家に歸りつゝありしが乙醫は之を途中に要して曰く足下は大病人なり何故病床に臥し居らずして街路を歩行し居るやと傭夫は之を聞て忽ち眩暈を催し路上に卒倒す人々群集して種々介抱し居る處へ丙醫來りて病院へ連れ行けり然れども最初より試驗の爲めに一人を殺す目的あるを以て毫も傭夫の氣力を勵すことを爲さずして足下の病は危篤なり今夜だけも覺束なし抔と言ひ居りしが傭夫は其翌朝死したりと云ふ。

醫者は試驗せんと欲して試驗を遂げたることなれども試驗の材料となりて死したる者こそ實に憫むべきなり。

吾人は小說に於て毎々之を觀る二男子が一婦人を慕ひたる際に一男子は其願望を達したるが爲めに長生し立身して有名なる學者と爲り勢力ある政事家と爲り他の一男子は厭嫌せられたるが爲めに零落し若くは夭死したることを、蓋し是れ強ち其婦人が男子の將來を洞見する程の眼識を有せしに非ず一方は願望を遂し得たるが爲めに學者と爲り若くは政事家と爲りしなり他の一方は願望を達し得ざるが爲めに失望落膽して夭死若くは零落せしなり。

凡て人は其心を勵す者なかるべからず何の快樂もなき者は唯浮世の味氣なきとのみを感ずるなり人心實に不思議なるものにて將來に愉快なる希望ある者は爲す事凡て好結果を得れど

も將來に樂しき希望なき者は山路にて日の暮れたる如く何事を爲すも成功を見ず悲しき生涯を送るなり心の愉快なる時は見るもの聞くもの凡て愉快を覺ゆれども心の不愉快なる時は見るもの聞くもの凡て不愉快を覺ゆるなり事の成らんとするを見れば猶發して一生懸命になれども事の敗れんとするを見れば勇氣沮喪して寧ろ此世を去らんと欲するなり。

嗚呼戀愛は生命なり生命は戀愛なり戀愛なければ生命なく生命なければ戀愛なし人をして顯榮ならしめ長壽ならしめ天使の如くならしむるは戀愛の遂げたるなり人をして零落せしめ夭死せしめ惡魔の如くならしむるは戀愛の敗れたるなり戀愛は實に浮沈の別るゝ所なり生死の別るゝ所なり天堂と地獄との別るゝ所なり。

天下を動す者は英雄の力なり然れども尋常一樣の人物若くは尋常水平以下の人物をして英雄たらしむるは淑女の愛なり豈に啻聾者をして聽かしめ啞者をして言はしむるのみならんや實に死者をして蘇生せしむるなり世に英雄なしと雖も淑女は依然として淑女なり若し世に淑女なくんば決して英雄を出すこと能はざるなり而して此英雄をして秩序的の擧動を爲さしむるも破壞的の擧動を爲さしむるも唯淑女の方寸に在り淑女の方寸は實に平和根源なり又戰亂の根源なり淑女諸君よ希くは男子の功名心利慾心を激昂せしめざるやう清淡質素なる伊國風を採れ決して奢侈浮薄なる佛國風を學ぶこと勿れ。

○廢娼の議終に已むべからず（明治廿二年十二月九日嚶鳴政談演説會に於て）

伴　直之助　演説

廢娼の議は眞面目の問題なり、予敢て戯れに談ぜず、諸君も亦た笑て聽かれざるべし、予私かに信ず此議に就ては恐らくは世間自から老練の人物あらん、然り予輩は僅かに其人物あるを知る、抑々廢娼の議に關して日本國民は官民公私の區畫、政治黨派の異同、長幼男女の差、士農工商の別に拘らず、均しく聯環して離るべからざる責任を負ふものにして、現に廢娼贊成者の中には高等の官吏あり、新聞雜誌の記者あり、府縣市郡町村吏あり、府縣市町村會議員あり、大同派自由黨もあれば改進黨もあり、男子もあり、天保弘化の老人もあれば、文久慶應明治の青年もありと信ずるなり、廢娼の議論は斯も多くの若かも有力なる味方を有するに拘らず、其の味方の中には平生の雜談に於て雄辨滔々風雲生ずる程の議論家あるにも拘らず公然之れを公衆の前に訴ふるの稀れなるは、予輩の私かに遺憾とする所なり、左様斯様する内に文明の歩みは龜の如く獘風の進みは驅馬の如く、文明の花漸く破綻せんとするに、害毒は業已に社會の内府に漫衍し、我が神聖なる水穗國を浸し我が妙齡潔白なる婦女を辱しめ、我が活潑有爲なる大和男子を殺し、遂に我が敬愛する四千萬の同胞をして生ながら天の刑罰に露さしむるに至りては、吾人焉んぞ默して已むべけんや、

予が所謂る廢娼論とは何ぞ、公許賣淫制、廢せざる可からず、官許遊廓の制、徹去せざるべからずと云ふなり、State Regulated Vice 即ち Licensed Prostitution. の制を非とするものなり、政府が斯の如き醜事に立ち入るとは其の本領にあらざるを主張し、更らに進みて一日一刻も早く之が廢止を斷行すべしと勸告し、而して之が廢後の策如何を講ぜんと欲するなり、

予輩は娼妓及び青樓の起因沿革を詳説するの時を有せず、今ま唯々其の成立ちたる有樣に就て考ふるに、斯の如きもの實に無用の長物なりと信ず、而して彼の存娼論程世にも怪しかる議論はあらじ曰く娼妓青樓は社會に必要なり、人類の情慾

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

は彼れに發せずんば則ち此れに出づ、若し娼妓青樓を公許せざるときは、私通、密淫、盛んに行はれて爲めに良家の婦女を傷け、黴毒を蔓衍し、淫風を起すに至らん、故に公許の制存せざるべからず、政府之れに干涉せざる可からず」と、是れ世故に通じ、事務に明かなる議論の如くにして、其實際は不明近眼の議論なり、是れ哲學家ベサンの所謂る「雪を以て蔽はれたる險峻なり」何を以て之を云ふ乎、曰く試みに人類の根原に就き、又其の繁殖する男女の數に就て考察せよ、人類の生るゝや「一夫一婦」、是れ天の吾人々類を規制せし法律にして之を遵奉せざるものは、必らず現世に在りてすら之れが制裁を受け、其の罰則に中てらるゝの結果を見ても、該法律の嚴粛なるを知るに足るべし、近世統計學者の泰斗マルホール氏は佛國の革命及び之に續ける「ナポレオン戰爭」の後ち、佛國に男子の多く生れたる例證を擧げ、之れを說明して曰く是れ戰歿したる男子の欠を補はんとする自然法の妙作用なり」と、又た各國各市、各郡に徵するも、男女の數は殆んど平均して大差なきは世人の普れく許す所なり、知るべし自然は男子の獸慾を滿たしむる爲めに剩餘の女子を生ぜざるとを、若し存娼論者にして飽くまで自說を主張せんとならば、請ふ、此の剩餘の產物、玩弄的の活人形、醜業的の一階級あるとを示せ、然らずんば彼等は其母、彼等の妻、彼等の妹姉を出して此の業に從事せしめざるべからず、彼等之れを肯するや否や」且つ若し夫れ娼妓を以て社會人類に必要なると猶ほ他の貨物商品、文學技藝、娛樂遊戲の具の如くならしめば、宜しく之れが改良令を起すべし、之れが學校を起すべし、政府も亦た應分の保護奬勵を與ふべきものに屬す、然らざれば存娼の論決して根據ありと云ふべからざるなり、論者之に對するの答辭あるや否や、

論者は語を改めて曰ふ、我は一時の存娼論者なり」と、是れ亦た非なり、論者の一時とは何時迄を期限とする乎、論者は讀賣新聞記者の如く、道德の進むまでと云ふ乎、然らば何れの點を以て道德の進みたるものとする乎、之れ原因結果を誤まるものなり、道德を進めんと欲すればこそ、之れを進むるの手段を行ふべしと云ふに、道德進まざるの所以を以て之れを非とするは抑々如何、讀賣記者は曰く廢娼論を實行して誘惑的の弊害を除かざるべからず」其の文に曰く、彼の天然の情慾が宗敎と道德との爲めに制限せられざる間は遊廓を撤去すべからず」と、豈に前後矛盾の論にあらずや、抑々左支右吾其言を曖昧にして世人を籠絡せんとするや、然れども記者は予輩の徒なり、予輩と說を同うするものなり、蓋し廢娼の說を唱ふるものは學者先覺の任なりと云へはなり、若し此際百尺竿頭一歩を進めば、廢娼論の勇者たるを敢て疑を容れざるなり、抑々此種の存娼論者（一時の存娼論者）は、徒に架空の想像を逞うし、之れによりて安心立命を得たりとする偶像信者の如し、彼は男女の情慾即ち禽獸的の情慾を以て自然に出づるとなす、然れども是れ自然にあらざるなり、蓋し己れが子孫を殖し、己れが種族を强からしめんとて、一夫一婦を娶り、一夫一婦に嫁くは則ち自然に出づと雖ども此の自然の範圍を越えて根ざす所の情慾に至りては、悉とく是れ不正的、煩惱的、亂暴的の情慾なり、又此く手綱を離れたる情慾、墮落したる情慾の位置方向如何を考へよ、此情慾は天に登る乎、地に就く乎、否な物理の法則に於けるが如く、加速力を以て下り、終に千仞の深谿、地獄に至らずんば已まざるなり、心理學者ジョゼフ、ヘーブン氏曰く情慾の控勒を脫するや、猶ほ彼の帆なく舵なく颶風に遇ふて船の方向を如何ともする能ざるが如し」と、夫れ斯の如く情慾は程限なく、極處なく一たび之を放てば殆んど抑ゆべからざるなり、左なきだに抑ゆるに苦む所の慾情を、政府が公然政權を以て之を認可し、之れに公保を付し、之れに安心を與へて、以て世の青年輩の情を放たしむるとは、抑々怪しむべき事体にあらずや、親に分れ、故鄕を出で、鴻志大望を抱て、遠く此東京に來りたる有爲活潑なる青年諸君、其敗盜し幾何ぞ、而して此の毒害の爲めに、玲瓏玉の如き身、潔白雪の如き心、將來日本文化の柱石たる大器の敢へなくも消えて跡を留めざるもの果して幾何ぞ、是れ認可賣淫公許賣淫の制より生ずるものなり、

情慾は制すれば制し得べし、一旦放てば限局なくして終に心身を狂亂せしむ、是れ心理學上の原則なり、故に遊廓のある所は則ち淫猥の空氣天に漲り、不潔の風俗地に漫る、彼の庚申山の中の如く若し初めより見ず聞かず、語らざるときは、美麗にして、純潔なる生涯を送るべき者を、殊に導て身心を汚し、一生を誤らしむるものは、公許賣淫制に附着する固有の弊害なりとす、然るに論者は之を以て情慾防禦の良策なりと明言する乎、予輩は玆に多言せず、請ふ公平の眼を以て花街の設けある土地の風俗と、花街の設けなき土地の風俗とを比較熟考せよ、必らずや其の非を悟るべし現に巴里は其の適例なるにあらずや、冝し例令ひ然らざるの土地一二ありとするも、他に善良なる快樂のあるときは、自から其不潔不德の快樂を制するを何の難きとか之あらん、

而して存娼論者が本城なる惡病傳染の點に於ける失敗は其の情慾淘散の點に於け

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

る失敗に毫も讓らざるなり、蓋し公許の制に於て最も周到綿密なるものは則ち佛都巴里なり、巴里の青樓娼妓は警察の管轄に屬して嚴密なる條例の下に支配せらる然れども秘密の賣女三万人に上り、私通及び私生の多きは世界復た巴里に及ぶものなし、而て風俗局長（ヒウロー、チブ、モーラルス、と稱す、即ち道德を維持するとさ云ふ意）ル、ゴール氏の報告、實に其の驅黴の効力なきとを證明して餘りあり、其言に曰く、千八百七十年に於ける三萬の密賣中三千六百五十六人の患者ありて、公衆の衛生に危險なり」さ、又曰く巴里病院には九千五百名の黴毒患者あり、此他醫師の宅診及び自藥の患者を合すれば全府の患者四萬七千人の多きに上るさ（千八百六十八年調査）、巴里の驅黴條例彼が如く嚴にして其娼家の内外に効力なきと實に斯の如し、之が風俗を矯むるの手段なりさは恐れ入りたる話しなり、存娼論者の代表者にして有名なるドクトル、ウヰヤンチルをして「是れ到底無効なる制度なり、當法の宜しきを得ざるが爲めにあらず」さ、絶叫せしめたるも決して偶然にあらざるなり、

高名なるドクトル、エリサベス、ブラクウエル曰く外部の弊害を制限せんさする條例は、其弊害を防制するさ同時に直接間接に社會に害惡を敎導し、道德上の感念を腐敗せしむ」さ、苴し彼の存娼を以て幾分か惡病獘風を防禦し得べしさするも、其の一般に害毒を流し一國の元氣を消耗する所の弊害を思はば、存娼熱心の論者も、亦た當さに其の非を悟らざる可からず、米國のセント、ルイス、英國のロンドン、蘇國のグラスゴー、等は之れが適例なり、セント、ルイスは千八百七十年密賣淫の獘風を鎭壓せんさの目的を以て公許制を施けり、該制はルイスを六區に分ち、毎區に檢查官（インスペクトル）を附け、毎區檢查官の給料は壹ケ年金壹千貳百弗乃至壹千五百弗に上り、樓主は壹ケ年平均凡金三百弗を拂へり、然るに同地大學校々長ドクトル、ウイリアム、ザー、エリヲト氏の言によれば一千八百七十一年には娼婦四百八十人中有毒の者十八人なりしが（三步四分の三）翌年は六百五十八人中四十人を出だし、即ち有毒婦は增加して六步强さなれり」さ、爾後廢止論勃興してルイスの婦女四千人先づ廢止の請願書に調印し僧侶、牧師、醫師、法律家等數千人も記名して之を國會に呈出し、千八百七十三年より四年亘りて激論の末、上院に在りては四分の三、下院に在りては一に對する九十の大多數を以て廢止せられたり、又た英國に在りては御承知の通り放任主義（レット、エーロン）にて巴里やセント、ルイスとは全く反對なるが、千八百六十四年、六十六年、六十九年の三次に於て驅黴條例（コンテーヂアス、ディシーズ、アクト）を發布し、之を兵營所在の地に施して兵隊等の病毒に感染するを禦がんとせり、然れども是條例は徒らに色慾の放肆を助長するに過ぎざるの結果を露はし、數千万の人民熱心之れが廢止を勉むるも職を之に奉する官吏、巡査、醫師、或は情慾放肆の盛行の爲めに利するの輩は主として之れを弁さして廢否の議論紛々たりしが、是も終に一昨千八百八十七年を以て廢止せられたり、

英國の娼婦は自稱して「クインス、ウィメン」さ呼ぶ、蓋し自から「勿體なくも女王陛下の政府が公許して、無毒なりさ保證せし婦女なり」さ誇るなり是れぞ最も俗心を惑はし汚情を誘ひ、以て世人を陷阱する所の地獄にてあるなりセント、ルイスバリー、ロンドンの例明かに之れが恐るべき、忌むべきとを反省せしむるに於て餘りあり、

論して玆に至らば公許賣淫は有害無効の制度なるとを明かに了解す、故に予輩は寸毫も存娼論者の言を容るべからず、却て彼の論者が兜を脱して廢娼の軍門に下たるの適當なるを信ず、殊に況んや讀賣新聞記者の如く、餘程廢娼の正理さ利益を辨知する者に於てをや、

予輩は更らに玆に於て廢娼論に關する極端論を明言せん、予輩は前條の議論の當否を云ふに及ばず又た假令ひ世の事實が悉さく存娼論者の口實さする所の如くなるも、予輩は斷じて曰はんさす、醜業如何に漫衍するも政府は斯かる醜事に立ち入る可からず」さ而して之を政治部面より放擲して宗教家、道德家、博愛、慈仁の徒に一任すべし、條例規則を制定し、官局を設け、官吏を置きて、之を保護するが如きは決して其の本領にあらざるなり、

存娼論者は貧困なる婦女を憐れみ、彼等が職業を得るが爲めには、醜業も亦た已を得ざるとさなす然れ共予輩は信ず、「家貧して孝子出づ」「意志の在る所方便あり」眞に貞節なる婦女は貧困を免かるゝ爲めに、其の一身を賣らざるなり、賣らざるも之を救ふの方便を得べし、而して是に關しては本日諸君に頒布せし「廢娼の說　中に論述したれば玆に贅せず、

世人は曰ふ「富國强兵」さ、富國强兵の本は吾人が品性を高尙にするにあり、殊に世界に於ける種族發達の歷史を見るに、智力の强剛は身体の强剛に基き、身体の强剛は、品性の清潔廉正なるに因るとを知る、今之れを生理學に照らすにミッチエル、レビーの言へる如く、人類の神經は「ベリサデンシチー」の法則を免かるゝ

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

能はず、「ペリナデシチー」は心身の伸縮剛弱に關し、人類種族の盛衰消長に關す、語に曰く習慣は第二の天性なりと、然れども習慣は往々にして天性の爲し得べからざるとを爲すものなり、凡そ内外の事物によりて腦髓に起る所の感覺は腦の有樣を變化すべし、此變化たるや當初は些微にして力なきも反復によりて漸く力を得、其反復數々重なるに及びてや、全く腦の構成を變して終に習慣を爲す、而して此習慣は子々相ひ享け、孫々相ひ繼き、遺傳の法則によりて終に一家、一州、一國の習慣を爲す、孟子殷の天下を論して曰く紂の武丁を去ると未た久からず、其故家遺俗流風善政猶ほ存するものあり」と、夫れ國民的の美德確立し、國民的の生命強固なるときは、政治上の變化位は決して恐るゝに足らざるなり、恐るべきは此の緊要なる基本の確立せざるに在り、

因に曰予は本議を單に政治上の問題として提出せしにあらず、故に政治一轍の人々より見るときは或は不同意の點あるやも知るべからず、然れども彼の奴隷解放は如何、經濟上政治上のみに止まるや、ロバートソン、グランヴィル、シャープ、テイルウイン、等は博愛家として奴隷解放を主張せしもピット、バルク、フォックス、ウィルベルフォース、は如何、彼は純然たる政治家の事業として之れを主張せしにあらずや、奴隷賣買の不正は猶ほ娼婦賣買の不正のごとし、政治家として彼を排斥せば、之をも均しく排斥せざるべからず、阿片の貿易を禁する者は誰れぞ、曰く政治家なり、彼れは秘密に阿片賣買の行はるゝを知らざる乎、彼は之を知るも猶ほ之を公許するに忍びざるにあらずや、予輩は公許賣淫の廢止と倶に日本の道德進むべしとは云はず、然れども猶ほ賣淫を公許し、之れを認可し、恰かも賣藥代官の免許の如く、行政權を以て公然之を營むとを官許するの善からざるを信ずるなり、

人あり如何なる方法を以て廢止すべき乎、予答て曰く中央政府は今後若干年（凡そ五ヶ年乃至十ヶ年）を期して、全國賣淫の公許を廢止すべき計畫を定め、其餘は地方廳地方議會の所置に任して便宜取計はしめ、樓主娼妓をして漸次轉業せしめ、其の財產身躰に急激の變動を起さしめざれば則ち容易に行ひ得べし、又た問ふ其の地方廳、地方議會の便宜處辨法は如何、曰く警察權を以て、充分に風俗を取締り、之に背くものは嚴しく罰すべし、而して已を得ざる場合に於ては或る極邊の地（洲崎の如き）にして風俗に關係なき所には、假りに「限界窟場」として、深く立入らざるが如きも亦た地方の處分に任して可なり、又問ふ萬一密賣淫の恐ありとせば如何、是亦た地方の情況により或は公衆の衛生の爲めに、施療の治黴病院を設けて、既成の惡結果を救醫すべし、此等の點に於ては中央政府は宜しく放任して可なり、

批評

○饗庭篁村先生の文章（上）

不知庵主人

小說界に於ける文豪は篁村先生なり。若し明らさまに云へば今の西鶴派の人々即ち紅葉露伴愛鶴軒の諸氏は先生に劣らざるの文字を作れど、なほ余の先生を以て文豪となすは、よく練達成熟して流麗圓滿なる故なり、殊に諷刺に富んで字々針砭を食むは當代第一人と云ふべし。

諷刺に巧妙なるもの、是を前代に求むるに三あり。平賀鳩溪山東京傳式亭三馬是れなり（全交喜三二等の黃表紙作者は別にして）。鳩溪の文字極めて粗豪にして流暢なり、恰もスウヰフトと仝じく碎石をもて堅めたる道路に車を走らすが如し。京傳三馬は頗る巧妙に且つ平穩に人情の秘奧を批評的に實寫したり、故に一讀すれば唯筆力の精細に感ずるのみなれど二讀三讀して言々冷笑嘲罵せざるなきを悟らん。若し鳩溪の放屁論お千代傳或は京傳の繁々千話三馬の客者評判記等を讀んで反省すれば、無知覺の人にあらざるよりは必らず流汗背に

洽かるべし。

篁村先生の文字は實に其磧より出でしなり、然れども其精神は京傳三馬より來りしなり(但し三馬は全交の作意を盜みしものとすれば全交より……)即ち京傳三馬の骨に其磧を被せしものなり。人は先生を目して其磧を學んで更に輕妙なりと云ひ、輕妙の二字を以て先生を褒し且つ貶すれども、余は單にかく褒貶するに服せず。先生も一度は其磧を信仰され其文字を學ばるゝほどなれば豈に殊更に其磧より輕妙ありとて滿足せられんや、是れ畢竟先生滿腹の冷笑詼謔その筆端に迸ばしりて其磧風の文字を知らず〳〵輕妙ならしむるならんか。其聲咳に接せられし人は知らん、先生の一言一句總て諷刺的にあらざるなきを。

そも諷刺に最も適切なるは輕妙たるべきか將た堅勁たるべきか。稀にはスウヰフト或は鳩溪の如く粗豪をもて稱せらるゝもあれど、粗豪なれば往々鄙俗となりて罵言に陷り易し、又堅勁なれば漸く質實となりて諷刺の眞を失ふ、故に諷刺の筆は輕妙にして流麗なるをもて好しとす。アヂソン、スチール、ゴールドスミッス、ポープの徒又近代のヂッケンス、サカレー等皆輕快にして平穩なり。アヂソンが「サア、ロージヤア、デ、カバレー」の如き最も輕快にして妙絕を極めたるは衆人よく知る處なり。我が國の遠き「枕草子」或は「徒然草」等も亦諷誡文字なるが重厚雄大ならずしてよく非凡の巧妙を逞す。

篁村先生の文字は實に輕妙なり、輕妙なるが故に冷笑自在なり、否な先生天質の諷刺的才能は終に輕妙ならしめしなり。むら竹第九卷中の「時の用」なる短篇を見よ、これ先生が數年前の筆にして宛然たる其磧なり、これを傾城禁短氣中に列するも見紛ふべき筆力にして先生を單に輕妙と目するものは或は一驚を吃すべし、夫すら第三回の冒頭などは先生固有の輕妙を脫せず。又「商人氣質」を見よ、是も大に江島屋の調に近けれど折々に一種の篁村躰あつて存す。是等は先生得意の文字にして、其磧たらんとするもなほ其磧たるを得ず。況んや他の自由に筆を揮はるゝものに於ては豈に重厚ならんと欲するも得べけんや。

人には各々得意のものあり、文に於て見るも詩歌に於て徵するも各々異なるを知るべし。例へば全く正風を奉ぜし人にても其角には其角支考には支考許六去來には許六去來の風あり、最も醇雅にして芭蕉の敎を守りし嵐雪すら猶ほ芭蕉の調と大に異なりし。全く溪谷より流るゝも次第に分れ支流は支流

を生じ終に十万の小流と爲るに及んでは、悉く其趣を異にす、况んや源泉既に全じからで末流の全じからんを望むは識者其到らざるを笑はん。許六曾て倘白を評して曰く。

「(上略) かれが器鈍にして重き處に一風面白き胴切たる處あり師この胴切たる事をよく助けて用ひたまへり今はその筋も忘れたりたとへば五人持の大瓶の底のぬけたるが如し一とゝせ忘梅と云ふ集を作らんとせし時師次第に流行し給ふに依て輕みをとき給ふこの輕みのもとにをちて今に其集あらずして年を經ぬ例へは古き井のもとにをちて溺る人あり師のたすけによつて水際まで引きあげ給へり元より苦しみを忘れて爰ぞ世界と思へる時師は井輪石垣をはね上げて輕みこゝありこの處へ來れと敎へ給ふに落ちたる人師の眞似をしてはね上らんとする時例の鈍く重き器なればもとの水底へ沈みひたもの迷ふてあらぬ好みをたてるが如し云々

嗚呼！ 倘白のために悲しむ。かれもし重き處を守らば又是れをもて他に超出せんに漫りに輕からんとして終に失敗せり、彼れの長處は重きにあるに畢竟强て輕からしめんとせしは抑も芭蕉の錯誤か。

先生の長處は輕きにあり、輕きを以て一家たるべし、若し强て重からんとすれば却て先生の得意文格を傷つくるの憂あらんか。近く國民之友夏期附錄の「良夜」の如き巧妙ならざるにあらざれど先生得意の文字にあらざるあり。石橋忍月氏が外來物應用に巧なる一例として引證せし一節の如き最も平凡なる句にして、單に是等をもて云へば二葉亭主人の一句一行に劣る事數段と云ふべし。嗚呼先生をして此くの如くならしむるもの抑も誰の罪ぞ。

(93)。米國の婦人 (一册中本百五十五頁正價三十錢 發賣所十字屋丸善金港堂其の他)

此書は有樂堂主人と號する牧師田村直臣氏の著にて、章を躰格と衣裝、婦人の待遇、男女の交際、婚姻の手續、家族の内幕の五に分ち、著者が米國に在る日、目擊もし經驗もし時には失策もしたるとを、最とも平易に面白く談話せられたるもの、筆記なり、著作の主旨は男女間の交際を清くするは基督敎に在りと云ふを知らせんとの事、日本及び米國の風俗相違月と鼈の如くなるを知らせんとの事、平易なる文字の躰を示し社會の緊要問題を笑の中に述ぶる方あるとを知らせんとの事、其将敎の敎師なりとて澁柿を食べた樣に何時でも澁い顔を爲し可笑なとがあつても閻魔の樣に剛い顔をして笑ふが敎師の本分と思ひ違ふの誤まりたるを知せんとの事、以上四の

理由あるに因る由、之を通讀するに抱腹絶倒すべき所ろあり又た大ひなる戒しめとある所ろあり、平易にして米國の女風大略を知らしむるは蓋し此書を以て第一となす。

○M、M、君の小説界文派を讀む　雲峯子

我國今日の文學界は之を英文學史に比すれば恰もチョーサー時代の前なり未だ文體一定せざる時代也此故に人異れば文體が同じからず十人は十種の文派をなし各一方の長所を專にす然れども早晩我國の文學界にチョーサー時代來り文體粗々一定すべきは人も余も共に信ずる所なりされど其時代の來るは何時なるべきか是今日に預言する能はざる所なり而て此時代の來る迄は未だ何れの文體が勝を制すべきや素より知るべきに非ず然れば今日文學界に現出する文體千種萬類ありと雖も何れを正派となし永く文壇に勝を得べきや之を今日に斷ずべからず亦今日の文學界は之を我朝の歴史に徴すれば恰も戰國時代の如し今日と雖も素より藝の毛利に比すべきあり越の上杉に較すべきあり奥の伊達に比すべきものあらん其他赤松と云ひ佐々と云ふが如きものあらん然れども何ぞ知らん此群雄蜂起の間に於て人奴より起り徒手天下を裁定する大閤其人の起らざらん事を、先の英雄豪傑は素より英雄豪傑たるに相違なしと雖も上に上あり彼等を統御するの大英傑ある事を知らざるべからず徒に先の英雄に心醉して後の大英雄あるを思はざるは正に識者の爲すべき所なりと云はんや。

余は前號の紙上に於てM、M、君の所謂文派なるものを讀み聊疑ひなき能はず君が今日の文體を類別するの點に於ては余は大不同意なし然れども雜體云々の所に至ては實に不審に堪へざるものあり君曰く「此内(雜體)にはうまきものもあれども頗るまづきもの多し」と嗚呼是何の言ぞや君は如何なる標準に依て雜體には「まづきもの多し」と云ふか亦何に依て君の所謂文派中にはうまきもの多しと爲すか、其文派中にうまきもの多しと君は直接に表はさずと雖も此意は雜體中には「まづきもの多し」と云ふ文中に自ら含蓄するは掩ふべからざる事ならん余は如何にしても此言の當れるを見ず何となれば君の所謂雜體なる石橋忍月、南翠外史諸氏の著作は其文派中の著作に比例して「まづきもの多し」とは云ふ能はざればなり、君又曰く「先づ考ふるに言文一致を學ぶを以てよしとす」と何故之をよしと云はるゝや余は敢て其理由を問かんと欲するなり、終に「なまじ一機軸を出さんとて雜體に陷りあとにも前にも行きがたく退きがたき境遇に落るもの多し」と云ふに至つては余は愈怪訝に堪へず君は如何なる證據あつて雜體に陷ものは進退谷ると云ふや。

要之に君は今日文學界に現出したる文體中君の所謂文派なるものに重きを置くの甚しくして其他の文體及び今後起るべきものは凡て雜體となし之を擯斥せらるゝが如し想ふに君は彼の小英雄小豪傑に心醉して大傑の出るを知らざる者に非るか英文學界に於てチョーサーの出るを知らずして其以前の文體を以て永遠に存すべきものと爲すが如し余は今日より斯る俊傑の出るを斷言する能はずチョーサーは必らず起るべしと預言する能はず然れども需用あれば此に供給生ず、若俊傑人を要するの時代來らば天必らず其人を生ずるを信ず、若亦生ぜざれば我國の文學界は永く戰國の時代たるべし是既往の實例により經驗によりて有り得べき事と信ずる能はざる也、只信ず我國今日の文學界は之を英文學史に比すれば未だチョーサー出でざるの日也之を戰國に比すれば未だ大閤起らざるの時今後必らず大閤たるべきものチョーサーたるべき人顯出し遂に我國の文學界を平定し文體を一定するの時期到來せん事を然らば則ち吾人が尤も注目すべきは實に雜體中の文章に非ずや。

○哲學涓滴　文海堂發行

文學士三宅雄二郎氏の著にて全卷を四部に分ち、緒論、獨斷法の哲學、懷疑法の哲學、批判法の哲學とし、各部を更に小分し、ベーコン以下ヘーゲルに至る諸哲學者の論意を約說し特に近世哲學者の所論を詳らかにせり、緒論進學解以下の五章は著者が平素の安心快樂を寫し兼て當世を罵嘲し超然自ら許すの氣高し、近來哲學の何物たるやをも知らざる者續々此の神聖の學を冒用し毫末の理窟を語れば直ちに之を哲學となし驕然世に慢するものあり、此時に當りて著者此書に題するに哲學涓滴と云へり、昔しニウトンが自謙せし美談も思ひ出され坐ろになつかしく思ほゆ。

○外交　博文館發行

小中村義象、丸山正彥、增田平信、落合直文、荻野由之五氏の合著にして、外交の變遷、外國に對する國權の弛張、外國に關する彼我人民の法律、外國人歸化の制、外國人に關する土地の制度及所有權、外國人民住地の制限、外國人任用の例、外交官の職制並に遣外國大使、外國使節接待の禮度、日本人の外國に對せし氣象、等十條を悉さく國文學上より說下したり、邦人多く國文學の價値を知らずこれ其學ばざるの失に因るを論なしと云へど亦之を教ゆるもの乏きに因り、之を教ゆるもの多しと云へど善く之を教ゆるもの少なきに因る、然るに外交問題切迫して万人皆な首を擧げ之に注目するとき如此く有益なる解說の出るを見ると喜こびに堪へず。

○一字一涙慨世の文華　日新舘上梓

清水多計松氏の編輯する處ろたり、卷首に吉田松陰氏の肖像及び山岡鐵舟氏の題字並に顚末記を掲げ、藤田東湖蒲生君平以下一百七十三氏の詩歌文章を載たり、中には聞えざる人もあり無名氏もあり亦其材料も珍らしきは少なしと云へど、斯程に多く集められたるは他に類なし、今日文弱の時世、如此く氣骨あり忠血あるの詩文を多く一覽し得るは常ならぬ賜物と云ふべし。

○亡友錄

博文館發行

勝安芳氏亡友帖の文章を錄したるもの也、亡友帖は故人の遺墨にして芳秀の精滴々紙端に現わるゝの思ひあれども、只だ其文章を錄したる亡友錄は寧ろ美人の死骨を見る歎ふきに非ず、然れども古英雄の所思何如は尙ほ大に揣知するを得、今人玩味せば益を受ること少からまじ。

○泰西監獄問答錄

監獄協會　藏版

小野田元熈氏の著にして、明治十一年川路大警視に隨つて歐米各國の監獄制度取調の爲め洋行ありたる時の復命書を、此度更に校訂して出版ありしもの也、佛國、日耳曼國、獨逸國等の制度特に細密なる如し、全卷を規律、監獄の主義、監獄の區別、管理、分房合房監得失、司獄官吏、入監手續及名籍人相寫眞、囚員、役法及給與錢、監獄設及衣食、教法教育、在監者書見、寄信接見及差入物、賞罰、警戒、衛生及病者、刑期計算及償役、假出獄及監視、出獄、死刑等の二十章に分ち、他に女囚、未決監、少年監、國事犯囚等取扱方を附錄し、枚數凡そ九百頁あり頗ぶる有益にして近來比類なきの良著作なり。

雜錄

○歲暮人生の感

しのぶ

何を以て人の一生とせん、七十年を以て一生とし夭折を以て短命とせんか抑そも七十年と十餘年との相違幾干ぞや、或人は云く宇内を動かすの事業を成しなば則はち人の一生終るとすべしと、又或人は云く世の不善を絕やし愍れむべきものを慰さめ得ば一生の事成れりとすべしと、而して其の思ふ所ろ未だ成らず半途にして死するときは人生全きを得ざりしとと憾むごとし、左れど世界を動かすの事業と世に聞えざるの些事業と、滿天下の不幸者を救ふ慈善と家内を滿足せしむるの小慈善と相違ふ所ろ果して幾干ぞや、若し眼こを小さくすれば其小さき境ひの内には微かなるものも大きく見ゆべし、一度び目を放てば六合廣大なり、よし全地球を動かすの力ありとも差して天地に影響するとなし、富士の山は高く吾丈は至つて低く奈落の底は尙更に深し、然れども全地の面より看來れば渾べて是れ一の平面、球面とならん、如此く少との優れるもの劣れるものの其差大ひなる如なれど、若し之を全能全智なる大妙力の前に於て比較すれば差違を見ると殆んど無し、左れば一日の短きと猶ほ七十年の短きが如く、大事業の小さきは又猶ほ小事業の小さきが如し、何如なる事を爲し得たりとも汝ぢ誇ると勿れ、何如に短命なりとも汝ぢ泣となかれ、寸刻の間だも一生なり、彭祖の壽あるも亦一生なり、人の一生は其長短大小にあらで、只だ其の在るの間だに善く勉め相應の義務を果すにあり、「草履取り」たるの人物は忠實に草履を取べし、其功ほしは彼の說教者政事家に異なるとなけん、一錢を惠むものは惜みなく施こすべし、其慈善彼の万金を寄捨するものと異なるなけん、人の一生は生きたる間だに出來べき丈の善を爲すにあり、中途にして死するも毫も憾みなし、百年生きて之を爲すも差して違ひあらざれば也、嗚呼汝ぢ何如に思ひ煩ふとも豈に生命を寸陰も伸べ得んや、須からく信仰の量りに隨つて平らかに思ひ、今日の事は今日の僅に善行すべし、一日の苦勞は一日にて足れり。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

○子供は母の寫眞

山下石翁

子供ほど眞似の上手なものは有りません、殆んど眞似をして成人するやうなものです、親がシカミ顔をすればそつと顔をしかめ、親が泣けば又た泣て見る、斯く眞似を爲るに由つて智慧を增し物事を覺えるのです、夫故子供の眞似を爲るのを止めるとは出來ません、寧しろ善事を眞似するやうに敎え、次第〳〵に善人と成すやうに爲るが親の務めです、孟子は小供の時、其近邊の有樣に隨つて、商人の眞似をしたり、坊さんの眞似を爲たりなど致したと云ひますが、遂に學校の近邊に住つたによつて又た學校の敎師生徒などの眞似をしたと云升、夫によりてどう〳〵あの大學者に爲る下地も出來たと云ふものですから、何如なる鳶の子でも成るべく鷲の眞似をさせたらば遂には鷲のやうに強くなりましやう。　親御樣、特に母親方の身持心得方は、子供の幼なき心に寫眞の如くに映り永く消えませぬから、子供を育てる方は能く心付けて第一其身を愼しまねば成りませぬ。　子供の眞似の巧みなとは先づ本號の初めに出した畫の趣きでも知れます。

○何如にして良人の愛を得べき說の疑　　力内齋主人

慣れ過ぎて無作法になるより妻は夫の愛を失ふと成程御尤です新枕の翌朝と迄には至ずとも婚禮した當年の心を失はねば何んのその家内は丸く平に漣とても立ますまい然りながら十分の化粧を以て立派に身形を作れとは餘り御夫人方にハ御奬勵申たくありません夫婦の間は紅粉を以て結ぶべからず誠を以て誠に接し愛を以て愛に應し初めて滿足を表すべきものなり累の如き姿でも無鹽の如き顔でも三從の戒三遷の敎を御承知の婦人ハ誰が目に見ても否少くとも小生ハ見て以て小町楊妃と拜し西施衣通と敬すべし子供も出來たれバ最早化粧に搆はぬとハ實に恃むべき精神心さへ錦を衣れハ亦何をか問はん夫の時姫氣取りで米を洗ふ人こそ其行末や思ひやられます故に曰　良人の愛を得るにハ須く心の化粧をなすべし身形は却て搆はぬが可なり世の婦人方何と思召すわすらるゝ身をは思ハずちかひてし人の命のおしくもあるかな優に柔しき此の三十一文字是れが之れ婦人の精神です。

○同じく答　　答へし人

必らずしも衣裝を飾れお化粧を爲よと申した意味でも無いので、衣裳も搆はぬお化粧にも無頓着であると云ふ如き亂暴な心掛をお愼しみなされと言ふた主意です、御婦人の鏡は每日顔を見て腹を立てたり邪推を爲たり吝氣を爲たり致した時の

顔付を見せる道具だと申しますが、丁度其樣に必らずしもお化粧を爲ない迄もお化粧に心掛ると云ふ程なたしなみがあり度いと思ひ升ので、此のたしなみが有つて夫婦別あるの敬へを覺悟して居れば、放り措ても良人は愛して呉るゝ者です。

○肺勞の原因　　郁　男

肺勞の起因に付ては古來屡々醫士の討論ありしが未だ確たる明解なし、始めは是を一種の遺傳病として若し祖先に是を病ふものなれば數子孫の后に至るも到底免かる能はず眞とに怖る可き天刑とせり、其后地面の濕氣を以て專ら其主因となし較近比に至りてコッホ氏はバシラスチユバキユローシスなる病種ありて身躰に蔓延し子孫に遺傳すると謂へり然れども當今の醫士中氏の説を酌むものと雖も病種遺傳の事に付ては信ぜざるもの多し。

今を距る三年程以前愛爾蘭の醫士ハンブルトン氏は新たに説を出して氣候の變化及地面の濕潤は決して肺勞の元因に非ずと揚言せり、其言ふ所を聞くに氏は氣候の急變ある地方に一人も該病に罹る者を見ざること屡々あり、又地位の高低を以てすと雖も是を説明し難し蓋水面より同じ高さの塲所に於て一方には該病流行し他方には全く無きことあり例之ば南米トドリッド其他高燥なる地勢に據る都會には肺勞流行すれど亞細亞洲中是より遙かに低き處に住む種屬ですら此に罹るもの極めて稀なる事實あり、又寒さとても一概に其原因とは爲し難し、彼の加那太、瑞典の如き極寒の地方ですら其數至つて尠なし廣く地球上寒國の統計表を看れば容易に其眞なるを知らん。又佛國にては肺勞の流行する濕氣勝の處にあらず反つて高燥の地に多し英國リンコルンシアイア州に於ても疏水法行はれて反つて肺勞を加增せし例あり。又バシラスなる病種躰内に蔓延する爲に該病を發すると云説あれども看病婦並に親しく患者に接する醫士の毫も是に感染せざる所以を考ふれば是亦傳染病あらざることを證するに足る歟。

斯く述べ來つて氏は自己の説を斯く主張せり。

肺勞の流行傳播は決して氣候の變化土地の乾濕に基くものにあらず凡て開化と波動するなり語を替れば生活の定度高き處に劇しく流行す、亞米利加、亞弗利加及南洋諸島は歐洲人と文通せざる時には一人として是に罹るものなかりし今に於て尚亞弗利加内部の歐米人に侵入されざる處には全く此病なしと云ふ。如斯理由あるが故に文明社會の景況を探究せば其中に是が原因を發見し得るは必定なり。

概して都人士は窮巷に群集し陋屋に蟄居す然れば新鮮なる空氣を呼吸し心目を山水に喜ばしむるの期なし是眞とに肺勞を喚起する一大原因なるべし、同じ國にても農夫漁夫、其の職業の敦放活潑なるより此病ひに苦むもの尠なし。氏は又言へり都會の人は多く背柱偏僂し直立の姿勢なし隨つて肺臟の膨脹力弱し野蠻人は山野を跋渉し獸畜を逐ふが故に其躰强硬姿勢整正なり隨つて肺腔充分に膨脹す此を以て都人野人に肺勞の數懸隔を生ず。氏は此說の眞當なるを證せんが爲に左の如く言へり。

誰にても永く胞壁を抑へ吸息を充分に爲さゞれば類似肺勞を發す是を治するは唯新鮮なる空氣を呼吸するに如くはなし是度々の試驗にて確めたるものなれば毫も疑ふることなし、曾て波里の尼寺に五十八人の尼ありしが居間の搆へ窓の配置等懸しかりしにや殘らず此病ひに罹れり然るに召使の女毎日市街へ買物に行が爲に不測にも一人之を免かれたりと云ふ。

以上ハンブルトン氏の說を眞ありとせば都會の人は務めて狹隘なる街巷を避くべし躰勢を直立にし胞腔を擴むべし又折々は郊村を漫遊すれば肺勞を未發に防ぐことを得べし。

〇五才子文　　A. B. C.

美妙先生の文は景敍に巧にして其精細なる事今日比類なし、殊に自然の物象に留心せらるゝは例へば寫眞師が原理を說明するが如し。

思軒先生の文は勁固質實にして飜譯の妙は殆んど原文の神を奪へり、憾らくは時に原文に拘執して恰も測量圖を見るの心地す、例へば道德先生が門弟子に小言を云ふが如し。

紅葉先生の文は自在圓滿にして奇句警語に富む、唯折々は殊更に才を弄して妙を損ずるの憾あり、例へば大通が興に乘じて喋舌るが如し。

篁村先生の文は輕妙快絕にして綿の中に針を藏むるの趣きあり。例へば粹な伯父さんが小言を云ふが如し。

露伴先生の文は建板流水の如く然かも光焔万丈の姿あり、時に悟道達識の妙あり又時に武勇力者の勢あり。例へば山法師が利劍を杖にして罵るが如し。

〇猫と鼠の敎へ　　出版部の小僧　白す

此度附錄としたる訓蒙繪双紙第一の「猫と鼠」の繪本は、小供が見て面白く、學者が見ても敎へに成り、意味深き趣向を含むゆへ、獨逸などでも盛んに行わるゝものですが、此回のは

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

詰り御婦人方に對して猫と鼠とが勸懲のお話しを爲るやうなものです、其繪に題する最初の文は、

昨夜とぼせしがらす燈、戸を其儘に明はなし、蠟燭倒れ蠟流れ、溶けし砂糖に左も似たり、ぬれしズボンが其儘に、掛けたる下に靴墨を、置くすら少し危なきに、長靴一つ放り出す、久しく仕舞ひ置かぬゆへ、其端鼠に嚙みさかれ、靴の中にもトンチルの、道ありとして通ふらん、鼠は夜な〱左りの、屋の隅なる穴を出で、穴かしこしと其處此處を遠慮遠釋もあら〱しく、騒ぎ迴ると覺えたり。

夜あけて既に日は高し、家内は何ほも寢ぼうして、起きしは隱居の玉（猫の名）斗り、いびき高きに遠慮して、猫はニヤンとも言はざれば、鼠はいよ〱圖に乘つて、彼のうまげなる蠟燭を、御馳走なりと食べかける、窺がひ寄つたる玉將軍、向ふはガラス戸、口は一方、逼入りし居に飛付んと、遠謀深慮めぐらして、息をころし見すましたり。

斯て猫と鼠の戰爭とあり、遂に御家内の落度に定まりて埒明くとぞ、精しくは繪を御覽あれ。

○ポルテーア龍動市に窘しめらる　一女生

ポルテーア、バスチルの獄牢を放たれ流涙して英國へ來り一陋巷假髮商家の二階に寓宿せり、市街を遊行せんとすれば忽ち愚民攢集して其面を覗き其袖を挽き喧嘩擾々罵詈誹謗せり酒はち傍らの石壇に佇立し手を揚げて大音上に呼ハり叱咤睥睨稍やく鎭靜なるを見て悠々語を起し密々に說き縱橫駁擊大英國人民たるの資格品位を毀傷せざらんとを論難せり、此に於てか衆始めてポルテーアの意表外なる俊傑なるを識り敬重畏服して只管に非禮を謝し輪肩に負ふて以て氏が家に到れりと。噫嗟大和民族の桑港に居留するものも亦如斯き虐待冷遇を蒙れり彼等ハ支那人を豚尾視したり將さに我等を犬馬視せんとする歟彼等の崇拜するリンコルンは其演說の冒頭に

"Fourscore and seven years ago our fathers brought upon this continent a new nation conceived in liberty and dedicated to the proposition that all men are created equal.

と謂へるに非ずや、自由平等の權利ハ米人のみ專有するものなる歟、大和民族ハ人界に厠せざる歟、誰かある米人の傲恣を挫ぐものぞ、起てよ有爲の若殿原ポルテーアと爲て桑港街頭に立ち妾等の恥をも併せて雪ぎ給はれかし。

○腸チブスに就ての心得（下）　醫學士　三島通良

此迄の中に申上度のは熱と脈搏の關係です、此の中脈搏の强

弱度數の工合(性量)が最も緊要の一事ですが、此れ實に醫學上の神秘で以心傳神、實に積年の練磨を以て悟る事ですから、素人方には申上ても判りません、たゞく例令熱が高くも脈の確りとして度數の多くない内ハ先ず安心であると云ふ事を覺へておいでなさい。

然るにチフスに就て恐る可き事が先づ三つあります。

第一は出血です、此れ日本にあつてハ、常も豫后が宜くありませんから、此の時分には患者は隨分身體を靜にして、醫者の指揮に從はねばなりません。

第二ハモット恐る可きもので穿徹乃なはち腸の破傷れる事です、此は三週の終り、又は四週の始に來る事で、大抵ハ生て歸れぬものです、其の徴候ハ急に疼痛が増し、虚脱の徴候が顯れて、冷汗が出、體溫は高く昇り、脈搏は弱く速くなつて遂に永き眠に就きます。

第三ハ再發で、チフスは實に容易く再發す病です、少し愈りかけた時分に、人に面會するか、親族朋友等からの手紙を見るか位の、精神上の刺戟でも直ちに再發する位ですから、早くから固形躰の食物を食たり、床を早く放れたりすれば、直きに再發して、又々いろはにほへとから始めねばなりません、此等は餘程注意す可き事です。

第四に西洋でハ牀瘡を恐れますのですが、日本人には少ない、若も始まる樣なら、空氣枕を下に挿ひ、其上日々何度となく其邊を温湯にて絞つた布にて拭ひ、而して醫者の手當を受ければ宜しい。

腸チフスにも勿論重い輕いがありますが、其内にも恐る可きは日本にては脚氣を伴ひ來る者で、此は豫后が非常に宜しくない、其他老人、酒呑に於てハ常に重くして宜ない、特に婦人に在つては此の際月經が止つて終ふ事あり、又懷妊中の婦人ハチフスの爲に流産する事があります、ドクトル、ベルツ氏は二回ほど之を見た事があると申されました、故に懷妊中或ハ産蓐中の婦人は其の豫后を注意せねばありませぬ。又た五十歳以上の老人なれば大抵は死亡ます。

腸チフスにて死亡者の割合は何の位かと云ふに、醫科大學第一醫院の調にてハ百人中十五人乃至二十人位です。然し此は年々の病氣の輕重で變る事ハ、勿論申す迄もない話です。

扨て此より看護の事を申ますが、其より先きに少々御注意申度事があります、其は何かなら、元來我國の人の腦中には昔からの御醫者樣と云ふ魔者が棲んで居て、醫は少技なりなど

ゝ醫者を看降して、例令學術に委しい醫者でも、ナンのアレは醫者す、未だ黄口の豎子だなど〻、自ら其の醫者を頼んで置ながら、其の醫者の申付を輕んじて、此に從はぬ人も少なくない樣です、此がそも〳〵間違の始りです、醫學と云ふ者は、單に人の疾病を治療する事をのみ研究する學文ではない、世界人類の生命健康を保持して國家富强の基を爲す、實に太切の學文です、されば此の學術を研究した者、乃ち醫者は一般人類の健康と疾病の上に於て、眞に全權を有て居る者ですから、一人の醫者を擇んで、此に治療を委頼し、此の人に生命を捧げて預けた上は、何事にまれ其の申付に違反てはありませぬ、此れぞ病を癒す最第一の良藥なり。

腸チフスの患者は、第一に身體を餘り動かさぬ樣にして、特に出血でもある時は更に靜にして醫者の手當を受けねばなりませぬ、而して第一に其の大便は他人と同じ便所にする事を禁じ、別の便器にせしめて、之に廿倍の石炭酸水を等分に入れ、又は生石灰等を入れ、能く混和て置てから、捨なければ、大に他に傳染する恐があります、此は最も大切な事です。

通例チフス患者は舌が乾くものですが、患者は口が利ぬから、云はぬ事あり、されば時々水を刷楊枝等に着て、潤してやらねばならぬ、又た咽喉の乾く者には蜜柑、橙等の液、又は鹽酸リモナーデの如き物を飲ませます。其他弱つた樣な樣子の時は雞卵酒を少しづゝ飲ます可し。

食物は一切固形物を禁じ、始は唯白肉の刺身と醬油とを能く潰し混ぜ、之を絞つて用ふるはよし、尤も後には刺身に醬油をつけ食するも差支へなけれども、すべて餘ほど注意す可し、先つ此が最も障害なき食物の樣です。

粥などは充分宜くなつても餘程氣を付て食ぬと再發をさするの虞があります。

茲に最も注意す可きは、チフスの日足は長きもの故、床揚げ等に快くなつてから、四五週間も經つていよ〳〵宜しと云ふ時でなければ、床を離れてはなりませぬ、其他、人の見舞、書状の往復等を禁じ、付けて固形體の食物を取る事は餘ほど暫時の間謹む可し、其他の治療法は學術に委しき醫者の熟知する處なり、素人方には用のないお話ですから其他は略します。

倘ほ繰返して申ますのは、凡て患者始め看護の人も謹んで醫者の申付を違反いてはありませぬ、又た何事にまれ一度醫者に索ねて、許可を得た事であければ、手前勝手な事をしては、決してなりませぬ、此れやこれ、最早く病を癒すの神劑なり。

右は過日明治女學校に於て演説ありたるもの〻大意を筆記せし也。

小說

○伊利太の佳人

第五回

ゲーテー著
愛軒居士譯

少時ありて法學士は佳人の許に到けるに佳人は非常なる心の騒擾を以て法學士を迎へ自ら先づ臥床の上に坐して其側に最も近く立る椅子の上に法學士を坐せしめし時に其心の混亂は如何にありつらん佳人は望の如く法學士の側に在るに言べき事も考へ置ざれば只默りてありけるに法學士も一言なく恭しく對坐せり佳人は終に心を厲し少しく氣遣はしき顏容にて、貴君の歸鄕以來日尙ほ淺きも到處貴君の才藝に富み且つ信實なるとを知らぬ者なく妾も亦た貴君を信じて依賴すべき不可思議なる一要件あり去れども其事件たるや正しく考へなば事を處理する法官に訴ふるよりは寧ろ懺悔を聞く僧侶に述ぶべきの事なり妾は一年以前富裕なる人と結婚せり其後共に和暮す間は夫も妾の事に注意して信實を盡しくれ若夫に旅行貿易すべき不穩の念慮起り夫を妾の腕より奪ひ去らずば妾とても夫に對して訴ふる所なし固より夫も道理に明るき正直なる人なれば妾を殘し遠く去るの不正あるとを感じたり年若き女は决して寳石眞珠の如く守護し得べくもあらず恰も美菓の充滿せる庭園に比較すべく若し我意に戶を閉ぢて兩三年間之を放任せんとせば必らず人々の爲に貴君の爲に失ふとを知れり其故に出發するの前にも甚だ眞面目に妾に語れり妾が朋友なく暮し得ざるとを確認し獨り妾に之を許すのみならず妾に迫りて妾が後來胸裏に起る情欲に遠慮なく自由に從ふべきとを約束せしめたり。

佳人は一二瞬間思に沈みしが少年の眼睛を見るに恰も談話を促すが如に見ければ再び其思し事を吐露するの力を得たり。

夫は尙ほ二三の條件を附して妾をして非常なる注意を爲さしめ妾に聰明穎悟にして信實あり又寡言き朋友を擇ぶべきとを命ぜり貴君願くは其餘を語るとを免し給へ妾の混亂を免し給へ貴君は妾の混亂を見て妾が如何に君を慕ふかを知り給ふべし願くは妾が意中を察して妾の希望と請願とを推し給へ。

稍々時立ちて年若き愛すべき男は善き考を以て答へたり。

余は如何にして斯くばかり幸福榮譽に存する夫人の信實心に報ぜんや余は只だ熱心に夫人が不正なる所業を爲さゞりし事を證據立んとを望むあり余をして先づ法律家として答ゑしめよ余は亦た法律家として夫人の郎君が然く明に己の不正を感じ又見通したるを聞き實に感嘆の外なきを夫人に向つて明解

すべし請ふ其理由を述べん凡そ遠隔なる地方に到らんが爲に年若き妻を捨てゝ行く人は恰も或財產を十分に放任して明なる所爲に依り其所有權を放棄したる者と見做すを得べし已に其所有權を放棄したる以上は假令再び之を拾ふ者あるも所有主は決して之に向つて嘴を入るべからず故に余は以爲らく若年若き婦女にして此地位に立たば再び已の感情を他人に與へ其快とし且信ずべき人なりと思ふ朋友に遠慮なく其身を任するは固より當然の事にして決して不正の事に非ずと信ず況や夫人今日の位地に於る如く其夫自ら己の不正を知り家に留まらしめたる妻に向て公然之を言語に顯し到底己の禁じ能ざる事を許容ときは最早其間に一點の疑も存するとなきなり此時少年は窈窕たる女友の手を採り全く他の眼容を見て熱心なる談話を續け、

夫人若し余を擇んで夫人の僕に供せんと爲し給はゞ明に夫人の意中を告げ給へ余は今日まで斯る幸福に遇はんとは少しも思ひよらざりしなり。

少年は佳人の手に接吻し高き聲にて、

夫人よ願くは余に向つて慥め給へ余より外に從順温和にして信實寡言なる僕を見出し能はざるとを慥め給へ。

此の語を聞き佳人は大に安堵の思を爲しシカと少年の手を握り其傍に身を寄りそへ頭を少年の肩頭に支へ最と熱心に愛情を表せり少時ありて少年は佳人の傍を離れんとし少しく愛を含み說出したり。

アー誰か世に余の如き不思議なる境遇に逢ふ者あらんや余は夫人の傍を去らんとて誠に吾心を脅迫せり余は最と愉快なる感情に從ふべき此瞬時に於て之を避んため吾心に非常なる威力を加へたり余は今日未だ夫人と相擁するの幸福を受くるを得ずアー夫人にして若し變心なく假令少しく後るゝも此美なる希望を達するを得せしめば余の喜怡如何ならん。

佳人は氣遣し氣に此不思議なる言語の原因を問へり。

少年余曾て「ホロクナ」に在り法律を學びし時恰も業將に卒んとし余も後來の目的を首尾よく達せんと思ひければ晝夜怠りなく非常に勉强せる時に際し生憎も重き病に襲れたり假令ひ余の生命は之に因て消滅するとなきも余が身躰と精神との活力は殆んど之か爲に撲滅せられんとするの恐あり此非常なる困難に陷り余は激烈なる苦痛の中に神に向つて誓盟を爲せり神若し余の病をして癒へしめば爾後一ヶ年の間は如何なる種類を問はず總ての快樂を遠ざけ嚴重なる齋戒を以て其日を送

らんとを約し幸に其病も平癒しければ今日まで已に十ヶ月の間は信實に其誓約を履み余も神の恵の深きを感ずるものから今まで慣れ來り熟し來る貨物を欠くも少しも苦しと思はず十月も左程長しとは思はざりき去れども此後二ヶ月を過ぎば如何なる考も勝つ能はざるの幸福を得べしと思へば殘の二月は始の十月に比すれば僅かの月日なれども余が身にとりては殆んど無窮の想あるぞかし夫人よ願くは暫時の月日を耐へ忍び夫人が斯くまで好んで余に定めたる恩惠を奪ひ去り給ふな。

佳人は之を聞き固より不滿の思を爲せしが少年の稍々思案にくれたる後再び説き出せるを見て復た勇氣を得たり少年は語を續ぎ。

余は大膽にも夫人に向ひ一箇の發議を提出して余が速に誓約を免れ得る方術を示さん若し一人あり余が如く嚴正堅固に誓約を守り余と共に尚は殘れる月日の半を其身に負擔し與るゝ者あらば余はそれだけ速に自由の身となり最早我等の望を妨ぐるものなかるべし余が眞愛の女友よ吾等の幸福を速にせんが爲に吾々の前に横はる障害の一部を除くとを好まざるか余は只信實ある人にのみ余が誓約を分つて之を委任し能ふなり其誓約は固より嚴酷なるものぞかし晝は只だ二度麵麭を食ひ水を飲み夜は僅暫時の間粗造なる床に之を送り如何に多くの業務あるも之を思はず幾度となく神に向つて禮拜を爲し若し今日の如く避くべからざる事起り饗應に侍するも決して義務を去るを得ず却つて眼前に山なせる甘甜美味の刺戟に抵抗を試みざるべからず夫人は一ヶ月の間此の如き嚴酷なる規則を總て守り得給ふか夫人若し此等の法則に從ひ得んとの決心を爲し得給はゞ夫人自らに於ても斯る賞賛すべき骨折を用ひ獨力を以て朋友を得給ふものなれば其骨折の多き程亦た愉快を感じ給ふとも多かるべし。

佳人は吾情欲を妨ぐるの障害を聞き餘り面白く感ぜざりしが少年の眼前にあるを見ては愛情の度益々高まり若し此の如き貴重なる貨物を得ば如何なる試驗も左程嚴酷なりと見へねば最と快く之を承諾し少年に向つて、

妾が眞愛の朋友よ貴君が不思議にも重病の危難を免れ再び全快したるは妾とても眞に神の力を難有思ふなりされば妾は愉快と義務とを以て貴君の負債せる誓約の一部を負擔すべし妾は貴君を斯くまで思ふ慥なる證據を示すを喜ぶなり妾は綿密に君の教示に從ひ貴君が許さゞる限りは決して貴君が妾を導き入れし道より離るゝとなかるべし。

寄書

○女子の長所

雲峯子

痛める者の痛所を知り惱める人の苦痛を察し悲哀に沈める者の心事を悟り懇情切意以て之を癒し快樂を得せしめんとするは實に女子の長所なり特質なり若女子にして一朝此長所あり特質あるを知り其needs用のある所を知り乾燥無味一大沙漠の如き世に在て苦しむ者悲しむ者病める者と共に苦痛を受るに至らば是其木分を盡し本領を全ふせしものと云ふべし。

女子の同感同情なる一語は千万無量の深意を含蓄するを見る盖し語を替へて之を說けば「共に苦痛を忍ぶ」の意に外ならざるなり、即ち徒に涙を流し聲を放つて其同情を裝ふにあらずして人類の感情中最も貴く最も必要なるものなり、眞質、高潔、優婉、美麗等の性質、弱者を扶け勞者を慰するの美質、家庭の幸福、平和等一として「女子の同情」の内に含蓄せざるなし、而して是等は只其一部分たるのみ以て其意義の深且遠なるを知るべし嗚呼女子は實に天下の女王なり彼等は千兵万馬を使用して天下を御せず、滔々流水の辨舌を振て國會議場を制せず君主の權力を以て人民を壓服せず、只一片の愛心一片の親切を以て誠實の士溫厚の人の心を支配せんとす嗚呼女子よ女は果して世上幾多不幸の輩が苦痛に陷り悲哀に沈み惱みに泣き苦みを訴へ悄然たる夢を發して汝等の同情を求むる時に當てや其苦痛悲哀を共に甘受するの覺悟あるか試みに眼を放て今日世の貧兒を親一親せよ喧擾紛騷たる市街の間、寂寞荒穢せる茅屋の裏一人の憐む友なく一滴の泣をそゝぐ知己なくして憂愁悲憤の内に北邙一片の烟と化し墓上一滴の朝露と消え去るもの果して幾許ぞや其疲勞せる容姿を見、其愁訴の聲を耳にして而て袖手過眼するは抑汝等の屑とする處なるか將た亦憐憫愛恤の涙を揮て以て乾燥寂寞の域を濕し悲境幽棲に惱める者を慰め人世をして光輝赫々和氣優々たらしめ木茂り花開き鳥欲ひ蝶舞ふの樂たらしめ往古上帝の樂園たりし「エデン」の花園を再び世に現出せしめんとするか。

本文は英國ケンブリツヂなる「トゥリンティー、コレーヂ」の教師ブラックニー氏が米國の某新聞に投寄せし書簡なり余は一讀して聊か感する所のものあり譯して以て貴紙に投ず餘白を汚すを得ば幸となすなり豈不文を顧るの暇あらんや、譯者識。

○發賣を禁止されたるもの

樽正町　あ　さ　女

風俗を紊亂する者と認められて近頃追々不淨的の出版者を禁止されたるは誠に悅しい事で御座ります。就ましてはイマ二ツ三ツ禁しられたいと思ひますのは遊廓の細見はいつぞや杞憂生と云ふ方が其弊害を時事新報で論じられ政府も之れを禁じられたとか承りましたが未だに折々呼賣の聲を聞きます繪草紙店などでも見かけますから。それに藝娼妓の寫眞ですが實によろしく御座いません年少の男子が寫眞屋の前へ立てナポレヲンやコロンブスの寫眞を見て彼も人なり我も人なりと奮發せしはどうも見掛ませんが藝娼妓の寫眞を見て「アヽいゝ女だ將に愉快を取るべし」だなどゝ放言した處は見ました又寫眞の販賣を論究しますと俳優の寫眞も好しく御座いません實に婦女子の（教育の足りないのでせうか）針箱や手文庫の中などに有るのを見かけますと慨はしく存します。それに骨牌の類ですが取分て甚だよろしく御座いません實に彼の小新聞と稱する紙上に此事の載せてない日はない位ひで中にも客が藝妓などと勝敗を爭ひては客は帽子襟卷時計などを奪れ藝妓の方はまた帶を解せらるゝなど見るに堪へない事が記して御座います。嗚呼遊び道具とは申せ此類の者を大人が玩ぶは尙更のこと兒女に持せるも甚だよろしく御座いません況て學校などでも之れを玩ぶとか云ふ事を聞ましたがマサカ爆說で御座いませうこれがまた眞實なら怪しからんとも何とも申しやうがありません。

○婦人改良を論ず

方今我國實に開化に趨き婦人亦强意らず奮然慨歎し他日志を立て堂々たる一男子と肩を並ぶるの場合に正に至らんとするも畢竟政體の穢淨に依る然り而して考ふるに此地一般驕侈に流るの風習あると貴賤上下の別なし勿論繁華にて實に多利の地方なる故然るべき事と想像すれども婦人學生未だ目的を達せざるに外見を飾るの有樣を見る是れに就きて考ふれは聊か國の衰へと云ん如何となれば未だ目的を達せざるに如此所行ある時は學業の進步に大に關係し遂に知らず識らず他の弊害を來たすことも亦尠々に非ず然るに妾の希望する件は可成身分より尠しく下等の方を用ふるを要す如何となれは身分より少しく上の事を爲すは是れ人情の通常なり故に驕侈に流れず節略に失せざる様注意を要す予此頃東京に遊び熟々風俗を回顧するに心中憂苦に堪へざるの風情あるに外出の時に當り意氣揚々として得色にて大金を抱くの有樣を爲す者も見聞せざるに非ず是れ實に百萬の大敵を受くるよりも甚しく其狀宛も一髮を以て千斤を釣るが如く其家存亡危急の場合なり故に遂に家を亡し國を滅するの大害を來たすに至る予不肖にして事理を覺らざる故落淚に堪へず勿論此事柄に付予の喋々を要せざれども國家の衰滅を座見するに忍びず故に愚言を綴り以て意見を示す（土州產にて此頃東京に遊ぶ女子）。

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

開書

拜啓未だ拜顔を得ず候得共毎々雜誌上にて御高說御卓論拜見影ながら景慕仕居候時氣寒冷殊に京地は一層の酷寒と承る國家のため御自愛可被成候今や女子教育の事輿論と相成府下は勿論到る處女學校女子矯風會等續々相起り申候は全く貴社が率先唱導提醒せられし結果と奉存候已に各地共上等社會の婦人には夫々教育の方法も備り父兄も必要を悟了仕居候へ共地方邊鄙の地に至りては頑然此等の恩澤に浴するを得ず殊に中下等社會に至ては實に歎息の形狀に御座候今一斑を申さば女子の字を知るは生意氣になり不品行を來すの基となるとて無教育を宜しと心得居候婚姻は無閙に急ぎ早婚を出世と褒め十八九才にて緣付ざれば疵物と毀り離緣を何とも思はず父母の口上にドーするつて髮を直しに行てこい緣がなければ直に出て來いなどとて或娘は婚姻の翌朝家の巡りを一周せしに椽側(外廊のことを俗にゑんがわと云)なきとて親許に皈りたりなどの奇談さへある程にて昨年嫁して本年は乙の妻となるなどは甚だ珍しからず候或る地方の如きは女子破瓜の期に至れば村内若者の自由にして婚姻離緣も其承諾を受けざるべからず親にして娘を制裁するを得ず父祖遺傳恬として怪まず甚しきは女子妙齡に至れば必ず娼妓となり賣淫せざれば婚姻せざるの地方あり殊に不思儀なるは地方の神佛にして祭禮緣日とさへ云へば壯年の男女のみならず有夫の婦人に至る迄成裝打連れ立ち猥褻の所行をなし恰も神佛は姦淫を媒介する月下氷翁の如し思に鄕に在ては鄕に從ひ給ふにや神靈の程こそ可笑しけれ故を以て日常男女の談話とさへ云へば必ず猥褻聞くに堪へざるの淫話にして女子も淫奔喘ならざれば喜ばず男女交際などゝは思ひもよらず寄ればさはれば終には肉体の交情の醜を演ずるに至る地方邊鄙の形狀は已に前述の如く誠に言に堪へず聞に堪へざる狀躰に御座い然に女學上の新聞雜誌を拜見するに如何にも我國の女子は一大進歩をなし歐米の女子に對しても耻かしからぬ樣相見へやれ慈善會婦人矯風會女學校 の新築女權擴張の演說舞蹈會音樂會等日として有らざるなく之れが記者たちは女子高等教育男女同權女子參政權或は美術或は舞蹈の事などは盛に御論評被成候得共さて地方の女子は如何なる景況にてあるか教育の景况は如何風俗の有樣は如何等は丸で問はず一たび印度女子の景况を聞ては之に泣くも我國邊鄙の女子の風俗には誰人も注意するものなく我家の事を捨てゝ隣の事に心配するとは餘り仁慈博愛女子教育女風改良の事を以て自ら任ぜらるゝ紳士貴女達の所行とも覺へ不申候故に我々地方邊鄙に住する者はかく女子教育上にまで中央集權を行ひ地方を度外視し椈門閨房にのみ親切にして下等社界を放棄し田舍はどーでも宜敷との扱ひ振りとは誠に殘念遺憾の事に候我々田舍者の不平眼より見れば今日京地の狀躰は彼のまめ男色好みの男が口に立派の議論をなし陰に婦人の愛顧を買んとする諛言にして彼の奈良平安の朝の昔に近きやと疑惑仕居候承れば貴社にては此度通信員を地方に置かれ地方の狀躰を知るゝ工夫を被成候由如何なる理由なるかは存じ不申候得共兎に角我々地方人民を敎ゆるの御手段かと恐察仕奉感謝候希くは向后地方の形狀御探訪蠢々たる婦女子をして教育道德の道を敎へ給へ弊風を矯正し教育をなすの方法を御論辨下さる樣深く奉祈望候(北豆の一靑生謹て白す)。

謹啓仕候陳ば賢兄奮て全力を女學に致す生は我同胞姉妹の爲に深謝する者なり生は貴誌愛讀者の一人にて候が近日來多忙にてヤット貴誌第百九拾號を去る金曜日に拜見致し候所讀むと未だ幾分ならずして光輝燦爛たるA Diamond則ち岸田孃の手簡を發見致し候生熟讀玩味する十有餘回思はず……噫々……の一語を發したり次て百九十一號を拜見仕候處天牢囚民K. N. 君と云へる同感の御方有るを見出し申候。生は岸田孃の手簡に付ては囚民君と粗々感を同じくすれば今淳々云はず……栴檀は嫩より芳ばし……實に岸田孃は他日長ずるに及て我國女性の覺眠者否我國を奮起せしむるの女史なり……生眞性愚なりと雖とも敢て女學記者に熱望す思想交換の媒介者たらんとを謹言

女學雜誌記者　巖本善治君　　F. P. K　再拜

追白、生過日「宮島政子を追懷す」と題する文を讀み連りと愛憐の情止み難き事有しが今又岸田孃の手簡を見て奮起致し候蓋しともに眞情より出し文字なるが故なるべし。

交詢

問の部

(一三)　睡遊の事に付問ひまするが貴誌第百九十號雜錄欄に三島醫學士のものせられたる夢行の事にて感付しは當地の教友某青年(明治四年八月一日生)は幼少の時より「ねぼけ」每夜の如く親に叱られ種々と手ひどくして醒され初めて氣付茫然として居たるが其性今に至て改まらず益々一層の甚しきを覺ゆるとの事にて殆ん

Digitized by Google　Original from COLUMBIA UNIVERSITY

ど毎夜の如く夢中に「ムック」と起き上り帯をメめ床を揚げ机に對し暫時にして覺醒するは常の事にして甚しきは錠を明け外に出で夢中に飛廻り巡査に尤められ初めて目醒め或は夜の明けたるなりと思ひ月夜に起き出し茫然月を眺め寒冷身に迫りて漸く心付き目醒めて見ればまだ一二時頃にてありしを以て自から打驚く事屢々あり又家中を飛び廻り人の寢定り入込み「ランプ」「火鉢」「卓机」等に觸れて初めて醒め柱に頭を打ちて痛の絶へ間なく或は椽側より落ちて脚部を傷むる等は常の事なりとて當人も我と我身の事に「あきれ果て」屢々嘆息して物語れり實に不幸の人と云ふべし尤も此人は醫學生にて常に醫學校に同居すれば夫々診察を受くるといへども十分なる鑑定付かざる由個は彼の三島氏の夢行と同樣なるものにあらずや又聞く世に睡遊なるものありと果して夢行と一般なるものか何にしろ幸に三島氏の此問題に因み同氏及大方の醫家諸君に此源因並に治法の敎を乞はんとす。

（在庄内　愛　鵑　子）

答の部

○五　何如ふるが好き妻かとのお問ひ、先づ年の頃は廿一二、親元はたしかなの、容貌格別好まぬがよし、世間上下を能く見抜たもの、慈悲心のあるもの、針仕事の能く出來るもの、余り多辨でないもの、宗教は其ものに任すべし、子のありそうなもの、惡い病のないもの、手は夫が留守に代筆でも出來るもの、血統の正しいもの。（濱荻英子）。

○六　名所の外の名所と申しても矢張り陸前の松島でしやう。（同前）。

○七　其土地に居らずして遠方の女學校の善惡を知るのには、其學校の女生徒が歸國した時其品行を見る事、新聞紙面の評判及廣告を見る事（矢鱈に新聞紙上でホメた時は學校より賴みしと知れ、切りに廣告するときは生徒が無きと知れ、改良と云ふときは惡るいのと知れ）、其規則書を取寄せ何如程に信切に氣が着いて居るや否やを問へ、又其地方の敎育會に問へ、東京府内ならば大日本敎育會とか女學雜誌社とかへ問ふがよろし、斯すれば分るもの也（神田素軒）。

○○○○○○○○
北海道アイヌ山人へ　同君より小妹へ何か贈られ度旨御厚志の段深く謝し奉る此贈り物の屆かざる内ち小妹より一言呈したし、北海道の敬愛する兄弟よ益々婦人の品位を進め又婦人をして自活の道に就かしめんことを熱望す些少ながら右プレセントのしるしに候（佐々城豐壽）。

●芝A、K、君。寢てから齒を嚙む癖を直すのは、寢る前に餘り何かを食べないのが宜しう御座い升●後藤猪太郎君。廢娼會は只だ先づ三萃を約し置た譯で近日群馬埼玉及府下の有志者打寄りて發起會を催うし規則なども造るつもりです、夫故只今細かくお答へが出來ませぬが近日追て申します●北豆狷狂生の君へ。進化論の書には此頃出來た伊澤氏の進化原論が一寸と宜しひでせう、西洋婦人傳を左程に精く書いたのは未だ有りません、日本人の著作の小說で最も良いのは色々說がありますが女學雜誌に載せたのを御覽になると少しは分かります、歲暮年始などに送い書物はとのお問ひ向に寄つて色々違ひますから明らかには答たへられません。

時事

○文學極衰（其二）

前號に或人としたるを左程に聞きたき乎、左らば申すべし島田三郎君が公開席上に於て演說したるの一句也、序でに福澤諭吉翁が此頃ろ其學生に語られたるものをもお聞かせ申すべし、左の如し、

余も最早或る部分の人々より舊日本の老ボレ時勢後れの議論などと評さるゝ身にありたれば世間の事には餘り關係せぬ積りなるが頃日諸々發兌する種々の雜誌等を見るに日本の文學を先づ當分此位にて休息するならんかと思はる何々派の文章何々黨の文躰と皆世間に賣れ口の好き文躰の眞似

をするものゝみにて一歩人に擢んでんとするの精神自から減少し只だ世に媚び供に諂らひ多分に賣りて利益を占むるを以て文學者の本職の如く心得居るものゝ如し左れば其學識材能は兎も角も精神に至ては古の文學者は今の文人に勝るは數等なり」と。

吾人は之に同意なり。

○さま〴〵 M、M、

浮世はさま〴〵なり、初しぐれに我名呼ばれんと樂しむ俳諧師あれば初雪に九年面壁の雛形作らんと嬉しがる童あり。團子坂の人形を見て涎を垂らす俗物あれば菊は花壇に限りヤスと暑くもないに扇ひねくる通がりあり。人造の富士の山大人國の榮螺でもあるめエと云ふ傍から十階の凌雲閣高ふゴザルと目論む連中もあり。報國盡忠の題目唱へる勤王家もあれば自由平等の旗ひるがへす壯士もあり。演說會に亂暴行はるれば懇親會に警官忙がし。賄賂事件——議員辭職——遊廓狼狽——廢娼論——存娼論、いづれ世の中はさま〴〵のものなり。

さま〴〵の世に生れて「執着せり……熱狂せり……」と我れ獨り悟り顏あるぞ心憎し、煩惱即菩提柳は翠花は紅……ト悟つてもあきらめ兼ぬるぞ是れ浮世にして悟り顏あるは僞聖人とこそ曰はめ。

○歳暮述懷 ふ、ち、

ぬす人にあふた夜もあり年の暮。はたとせの今日までまだぬす人にあふほど金持つたゝめしなけれど、くれかぬる年を來ねんハとくれたるあくる年に功名した話もなし。ことしも指を折るほどになれど仕出かした事は指折るほどもあらず。三春にあふをたのしと云ふ人もあれど、一善をだに作らでよみに近よるぞくちをし。徒らに西の書繙きてミルトン、アヂソンを羨むも今更に詮なければ、來ん春を便にして、唯何事も夢なり夢なり。

○麑島の女子教育

麑島の女子は一種の風采あり、其の凛乎たる節操に加へて文明の德を得ばアッパレ美なる佳人たらん、唯だ憂ふべきは明治十年の戰亂以后、土地貧窮して隨て女子に一の忌はしき惡風を釀せしよしなるが、志あるもの之を憂ひ、十三年に至りては師範學校内に女子部を置き他府縣に率先したる程なるに卒業するもの僅々十三名に過ぎず、以來引つゞき此教育に盡力するものありつれど尙ほ墓々しく盛んさはならざりしに、此度大女學校を設立して大に女子教育を伸張せんとするの計畫あり、眞に喜ぶべきこと也。

○濁界清報のひゞき

埼玉縣に於ては、昨年片岡勇三郎本間貞雄の二氏より縣會に廢娼建議の案を呈出したるに、贊成者至つて少なく、反りて深谷本庄兩驛の外にも妓樓を置んなど申出るものありし程なるが、本年は十日の議席に於て片岡勇三郎氏より三年を期し二驛の娼妓を全廢すべしとの建議を呈出せし處ろ續々贊成者現はれ反對するもの

一人もなく、たゞ其の廢止年限に付きて二三の修正說ありしが、決局發案の如く可決し、建議書起草委員には堀越寛助、片岡勇三郎、福田久松、石坂金一郎、宮川四郎の五氏に定まりしよし、而して本庄出の議員持田直、深谷出の議員本間貞雄の二氏は當日欠席したる由なれども、本間氏は身醫師にして而も熱心に廢娼論に加擔し居らるゝの人也。

滋賀縣に於ては、長濱、彦根、大津、八幡、八日市、草津等の信徒は連合して大演說會を開き且つ縣會に向つて建議を爲さんとす。

岡山縣に於ても、亦同樣の企あり。

府下に於ては、寺崎彥吉、安枝武雄、神山只次郎、浮田士提反、月ヶ瀨銈藏、角田直人、野條愛助等の諸氏發起となり、廢娼壯年義會と云へるものを組織し、東京府會議員の私宅を巡りて諄々廢娼の理由を辨じたり、尙近日大演說會を催うし、且つ運動費を募集して大に盡力する計畫の由。

婦人矯風會員は、各府會議員の內君を訪ひ、廢娼の事に付懇々勸告したり。

余は過土曜日番町青年會に於て、昨夜美士代町教會に於て、今日午后一番町教會及び神保町美以教會青年會に於て廢娼論を述べたり、尙引續き所々に遊說の見込なり。

又前號に附錄したる群馬縣よりの電報は少しく誤まりあり、知事が認可したるは衞生費、撿梅費、貸坐敷及娼妓賦金等に對し縣會が之を全廢したるを認可したるものにて、廢娼建議に付ては知事に於て尙ほ熟考中の由なり、吾人は其淸斷を待つ。

○細見呼賣

廢娼の聲盛なる也、此時に細見と呼びあるくものあり、何等の醜聲ぞ、政府たるもの如此き賣人を禁じて可也。

○琉球にも慈善會起る

琉球即はち沖繩縣にも赤十字社の支部を起せり、正社員六十五名、贊助社員三名にて一時寄附金を爲したる者九名、尙追々申込むものある由。

○交際の機關とは何事ぞ

滋賀縣會に於て藝妓稅の討議を開きたる時、原案の額を過多なりとして減稅說を主張するものあり、之に反對するものあり、特に禁止稅の主意を以て一層增稅すべしと論するものあり、議場沸々たるとき、番外岡田書記官は云く、禁止稅を課する如きは立案の本意に非ず、當路者は元と減稅の精神なりしに各地水害の不幸に會し費途多端なるを以て止を得ず之を增すに至りしのみ、元來藝妓なるものは交際上必要の機關にして宴會の折など興を添くるもの少なからず由りて人皆な之を聘するに非ずやと論じたる由、嗚呼是堂々たる議會に於ける官員の辭ばなるか、之に對して怒り論じたるものある由に聞き少しか慰さむ。

○女官へ紀念章授與　去十三日內閣賞勳局より室町典侍を始め女官九名へ憲法發布の紀念章銀製一個宛を授與したりと。

○鹿兒島女學校　鹿兒嶋の人竹崎一二柏彌彥知識五郎等の諸氏が發起にて此度鹿兒島女學校と云ふを設けんとし竹崎氏は此頃上京して同地出身の方々に付て寄附金を募集し居るよし同校設立の目的は專ら人の妻たるべきものゝ務めを敎ふるにありて數名の外國教師は無謝儀にて教育に從事するを約し此擧には西鄕松方大山の三伯爵夫人高嶋吉田樺山仁禮伊集院の五子爵夫人遊武かど子谷元常子種田すま子同なり子佐藤暢河島醇渡邊千秋得能通昌河野主一郎其他諸氏の特別贊成者ありと云ふ。

○群馬縣存娼論　木崎、玉村、新町、倉賀野、一の谷、板鼻、川俣等各遊廓の營業者は、廢娼延期を出願したる由、群馬縣會委員が調査したる處に由れば、各遊廓とも甚はだ富有にて大抵地租五十圓以上を納る程の資格ある趣きにて近く廢娼を斷行すとも左程路頭に迷ふものなしとの見込にて、議長湯淺氏は連りに知事に勸告せらるゝ由。

○我國の賤婦中　海外に於て醜業を營む輩不少に付き神奈川縣廳に於ては海外へ渡航せんとする婦人は身元を取調べ容易に渡航免狀を下付せられざるより近頃に至り續々虛構の事實を申立免狀を得んとするに付縣廳に於ては一策を案じ出し渡航本人より豫め歸國旅費を計算して預け置くにあらざれば許るし難しと云はるゝより彼れ等も其旅費に辟易し居る由夫れかあらぬか昨十二日橫濱境町三丁目岩本カメが桑港へ渡航願は聞屆けられざりしとぞ。

來る廿五日次號發兌可致に付き、新誌の評及び週報は之に讓り、本號には特更ら之を省く、讀者希はくは諒せよ。

○廢娼會に付き續々申込有之喜ぶ所に候近日發會式を致し規則等廣告可仕候

Digitized by Google
Original from
COLUMBIA UNIVERSITY

東洋英和女學校廣告欄

本校の學期は豫科三年本科四年にして別に二箇年に渉る高等科の設あり入學生は寄宿生百三十五名通學生百名を限とす毎科受持の敎員は孰れも熟達善良なり然して本校の敎授は實に完然なりとの世評を獲んとは本校の希圖する所なり規則書等御入用の御方は校長宛に御照會を乞ふ

麻布區鳥居坂十四番地

東洋英和女學校

社告

前號女學雜誌は兼て多數に印刷致置候處ろ悉皆賣切れ一冊も殘本無之に付最早御注文被下候とも需に應じがたく候。但し島田植木兩君演說筆記は別冊に仕立候間御注文願候。兼て廣告致置候猶と鼠いよ〳〵出版仕候續々御注文の程佇望致居候。

廣告

通信員の事續々申込有之候へども未だ申込なき地方も有之有志の人は至急通報あれ悉皆候補者を得たる上議定し更めて御委頼に及ぶべく候。

女學雜誌社事務員

○婦人白標倶樂部記事（第二回）

明治廿二年十月廿日本部總代佐々城豊壽潮田千勢外務大臣大隈伯に應問書を呈す○十一月八日委員會を開き本部會計一名を撰ひ本多孝當撰す○十一月十二日定期談話會を開き島田三郎君歐米婦人社交上に於ける情况を談話す○十一月廿六日前橋に於て上毛青年聯合會廢娼演說を開くの報あるを以て同會石島良三郎君へも電報を發して同會事業上の勞を謝す○十二月九日厚生館に於て婦人矯風會と聯合し廢娼演說會を開く來聘したる辯士植木枝盛君島田三郎君○十二月十三日定期談話會は豫定の講士德富猪一郎君差支ありて開會せす當日委員會を開く本會を以て本年の終會とす。

明治廿二年十二月十六日

婦人白標倶樂部幹事

工藤さの子

轉居

下谷區金杉村百六十五番地

森田文藏

日本赤十字社錄事報告

小松宮御息所殿下は去る十四日午後對馬警備隊司令官水野中佐と同隊一等軍醫高田熈の二氏を被召同地に於て日本赤十字社の主旨に據り創設せし篤志看護婦人會の是迄進步したるとを被賞且同地詰將校の妻女は有事の時に當りては內地に比すれば數倍適切の看護者たるの必要あれは此後も殊更奬進せられ度と懇々諭旨ありたり

○愛媛縣支部之總會　十月廿四日本社愛媛縣委員部に於て社員總會を開き其景況の報告を得たり即左の如し

報告

日本赤十字社愛媛縣社員總集會は嘗て豫記したる如く十一月廿四日を以て松山公會堂に開設せり尤同日は豫め當營所へ照會し兵營內及衛戍病院等總て參觀の許容を得たるを以て同日午前第八時を期し參集の社員は松山練兵場內陸軍將校參會所に參着せり暫時同所へ休憩し午前九時より步兵第廿二聯隊兵士の器械躰操及銃鎗仕合を一覽し亞て週番將校に導かれて兵營內に入り各室內每に將校は利器の効用幷に使用方法兵士在營中の情况炊事塲器具等に至る迄丁寧に之れか說明をなし參觀者に指示せらる又松山衛戍病院に至れは玄關前へ數多の腰掛を配列し毛布を敷き社員の休憩所とせられたり院內に入れは一室內に治療用諸器械類を陳列し又陸軍衛生隊出師用衛生材料の調度藥品類の陳列をなし又戰時衛生隊の位置及運動の方法等を略記せる圖面を揭け隊官悉しく說明の勞を取り各病室入院患者の情態寢具衣服等の說明を與へられたり夫より陸軍所轄舊城天主閣に登り後備兵の被服倉庫を巡覽し時既に正午に垂んとす同所櫓下なる廣塲へ數十葉の敷物を連ね午餐を喫し了て城山を下り縣立松山病院に至る是亦治療器械及各種の參考品を陳列し醫員は參觀者の質議等に反覆應答詳細なる說明を爲したり茲に至り各所の參觀を終り社員は午後一時松山公會堂へ陸續來集せるを以て委員長並に委員は之を迎へ各休憩室に誘ひ茶菓を供する會塲玄關前及表門へは國旗並に赤十字の旗を交叉して之を裝飾し同所第一號室を以て總會塲となし正面の中間を委員長の席となし奏樂席婦人席を正面の右側に設く午後二時擊拆を以て開會を報す

（以下次號）。

Digitized by Google
Original from COLUMBIA UNIVERSITY

島田三郎○植木枝盛

廢娼演說

一冊五錢○百冊三圓半

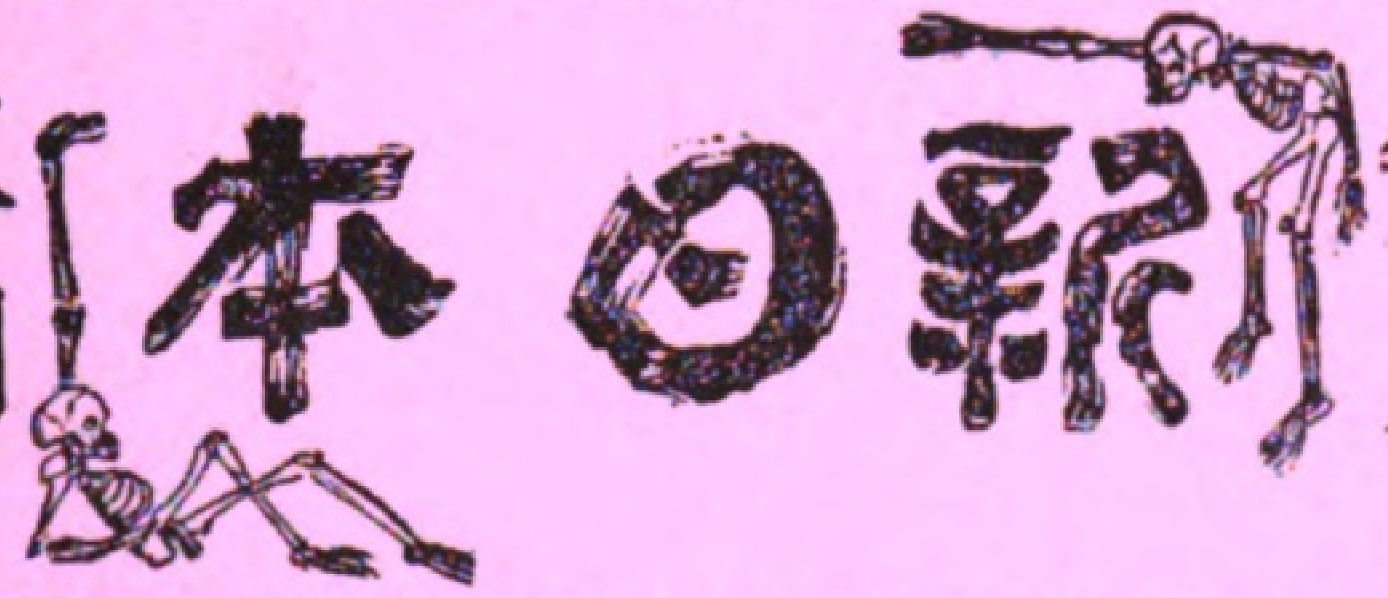
巖本善治著

妓樓全廢

一冊五錢○百冊三圓半

初號十五日發刊○次號は廿四日發刊

每月



二回

○新日本 ○祝詞 ○祝新日本開刊 ○祝辭 ○祝文 ○新日本の發刊を祝す ○新日本の發刊を規す ○委任狀の事 ○新日本出づ ○祝新日本發刊文 ○新日本の發刊を祝す ○祝新日本の發刊 ○自重せよ、新日本の青年 ○努力せよ、新日本の青年 ○新日本發刊の祝詞 ○自治心の必要 ○歡聲 ○入社の辭 ○主義の團結を望む ○ ○祝新日本之發刊 ○新日本の發刊に就て ○愛國同盟か感情經歷を ○本國の人士に告く ○祝文 ○新日本發刊ゝ就て ○放言一片 ○新日本の新刊を祝す

新日本子 板垣退助 大井憲太郎 内藤魯一 小林樟雄 新井章吾 山川善太郎 林包明 山田泰造 山本憲 横川勇次 新世界泰平 川上參三郎 菅野道親 高橋庄之助 伊藤仁太郎 音羽竹樋 尾村虎太郎 前川虎逵 齊藤桂次 小西悦次郎 中西元次郎 橋本政次郎 原田十衛 中江篤介 栗原亮一

明後日の大阪大會○東京倶樂部の決議○痴呆氏の亞流○圓滑病○嗚呼貧民！○美○鉄扇辯士○吾黨壯士の本色○風變りの壯士○發行停止(國民の友、朝野新聞、讀賣新聞)○條約改正善後の策如何○新内閣○自由黨解黨の大意○板垣伯の書狀○大阪大會ゝ就き自由黨組織賛成地方○曹洞宗紛議ゝ就き勸告書○大井渡邊兩氏の証明書○二枚屏風○在米日本人愛國同盟○候補主義○眞正婦人の味方等

一部六錢十部郵稅共五十五錢

二錢郵券投寄次第社員規約を呈す

東京根岸金杉村 新日本同盟社

大阪東區北新町二丁目 新日本同分盟社

發兌

一月。	一日	十一日	十八日	廿五日
二月。	一日	八日	十五日	廿二日
十二月。	七日	十四日	廿一日	廿五日

定價

一冊。六錢 郵稅。五厘 (但府內無郵稅)
十冊。五十八錢郵稅。五錢 (同前)
半年分 一圓四十三錢 府外は 一圓五十六錢
一年分 二圓六十錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を揭ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する每に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部增の割合と定む

一行一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同三回以上 一割引
同六回以上 二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる事物の廣告は社議の上無代價にて引受く女學關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

WOMAN'S MAGAZINE.

"JOGAKU ZASSHI."

Price 6 *sen*. By post *yen* 1.56 six month; *yen* 2.86 per annum, in advance.

Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 1B. FUJIMICHO 2CHYOME, KOJIMACHI, Tôkyô, Japan.

訓蒙繪双紙 猫と鼠 出版

一冊定價十錢 郵稅五厘

女學雜誌讀者ニ限リ七錢半

明治二十二年十二月二十日印刷
明治二十二年十二月廿一日出版

東京麴町區富士見町二丁目一番地

發行所 女學雜誌社

編輯兼發行人 東京麴町區富士見町二丁目一番地寄留 巖本善治

印刷人 東京神田區三崎町壹丁目十三番地寄留 森田豐

遞信省認可

Digitized by Google Original from COLUMBIA UNIVERSITY